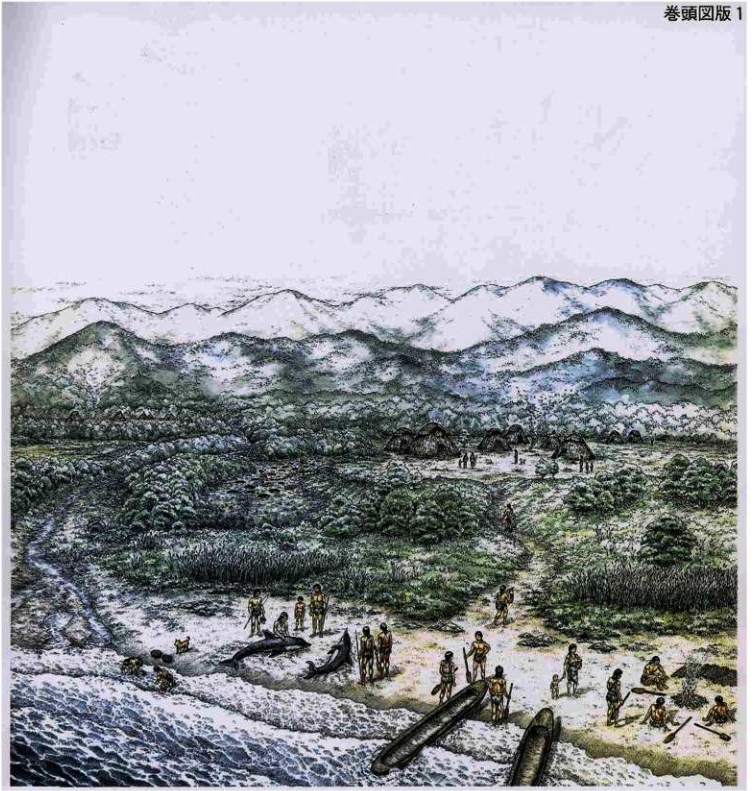
佃 遺 跡

本州四国連絡道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告Ⅲ

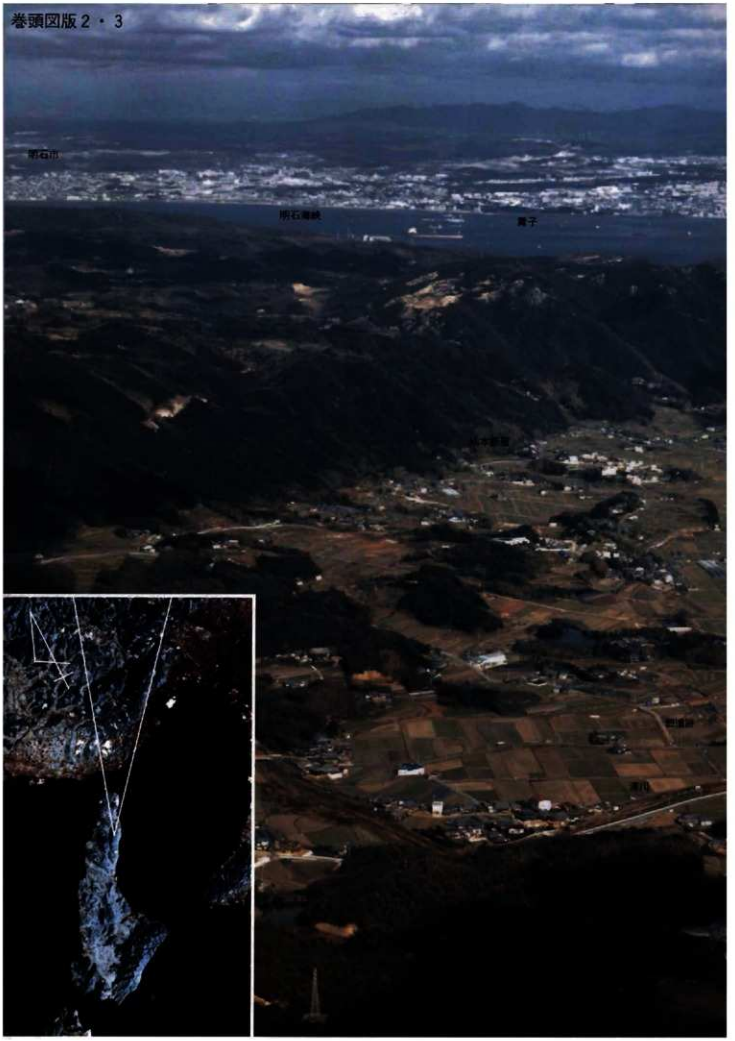
第１分冊（本文編）

１９９８年3月３１日

兵庫県教育委員会



佃遺跡縄文時代後期のムラの様子イラスト（東浦町史から）



ランドサットからの写真（1982～1983年撮影）

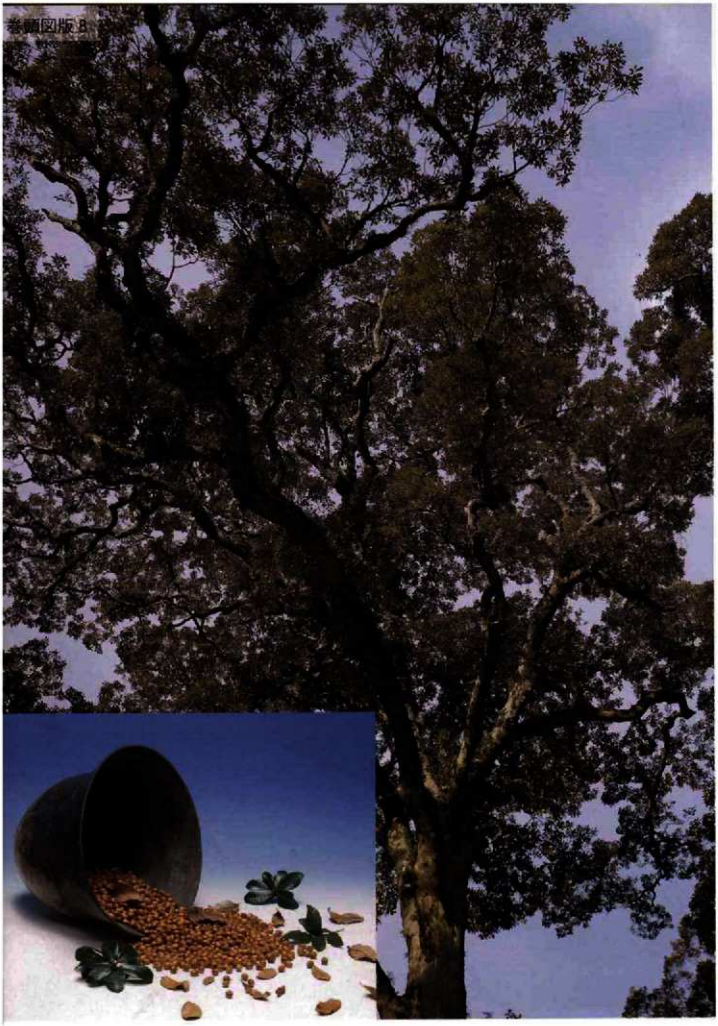
佃遺跡空中写真遠景（南から）1991.12.19撮影

南区木道出土地遠景写真（南から）

木道写真

南区縄文後期中葉の木道と貯蔵穴検出写真

縄文後期中葉・後葉の土器



縄文の森　イチイガシ

序　文

わたくしたちの兵庫県は、北は日本海、南は瀬戸内海に面し、内には緑豊かな山々を合わせ持つふるさとであります。

このような自然条件のもとで、古くから文化が開け、多くの貴重な文化財が残されております。これらの文化遺産は、歴史を学ぶ上に、さらには新しい文化を向上させるためにかかせないものであり、次代に申し送り活用を図ることが、我々の責務と考えます。

1995年１月17日に発生した兵庫県南部地震は淡路地方にも大きな被害をもたらしました。県民の長年の夢であった明石海峡大橋建設も震災の影響を受けたにもかかわらず、1998年４月開通にむけ工事は順調に進んでいます。

佃遺跡はこの大橋の延長である本州四国連絡道路（明石～鳴門ルート）東浦インターチェンジから国道28号への取り付け道路内で発掘調査された遺跡です。佃遺跡は本州四国連絡橋公団の依頼を受け、兵庫県教育委員会が調査を実施しましたが、この遺跡は縄文時代早期末にはじまり後期中頃に最も大規模に営まれた集落です。遺跡からは大量の土器や石器と共に動物の骨や植物食料が出土し、縄文人の生活ぶりのみならず、広域に活動した痕跡が多数発見されました。これらからこの佃遺跡は原始・古代の交流の跡を淡路島の自然豊かな情景を彷彿とさせる資料が出土し、これからの自然豊富な環境をこれからの県土づくりに生かす遺跡と言えましょう。ここに調査結果をまとめ、報告書を刊行いたしました。

この報告書がきたるべき21世紀社会・文化向上のため、お役にたてば幸せです。

最後に調査にあたってご指導、ご協力を頂いた多数の方々に厚くお礼を申し上げます。

1998年３月31日

兵庫県教育長
栗原高志

例　言

1．本書は兵庫県津名郡東浦町浦字畑に所在する畑遺跡（つくだいせき）の発掘調査報告書である。

2．発掘調査は本州四国連絡橋公団の委託を受け、本州四国連絡道路（通称淡路縦貫道）東浦インターチェンジ取り付け道路建設工事に伴って兵庫県教育委員会が発掘調査を実施したものである。調査は平成元年度（1989年）に第１次調査として確認調査を、平成３年度（1991年）に第２次調査の全面調査を、第３次調査として平成４年度（1992年）に全面調査を実施したものである。

　第１次調査（確認調査）平成元年度（1989年）遺跡調査番号890064

　第２次調査（全面調査）平成３年度（1991年）遺跡調査番号910064

　第３次調査（全面調査）平成４年度（1992年）遺跡調査番号920089

　また第１次～第３次調査については発掘調査工事として、横詰建設株式会社が請負作業として実施した。

3．現地調査は　平成元年度　吉田　昇、西口圭介、藤田　淳、鐵　英紀、多賀茂治

　　平成３年度　深井明比古、山本誠、深江英憲、所崎明雄

　　平成４年度　深井明比古、山本誠が担当した。

4．整理調査は、深井、山本、深江が主となって、平成６～９年度（1994～1997）に実施した。

5．出土遺物のうち、金属製品の保存処理は加古千恵子が、木製品は藤田淳の指導のもと行なった。

6．遺構の実測の一部補助員の小東憲朗、木下満代が実施し、他は調査員が実施した。遺物の実測は嘱託員が主に行ない、土器は八木和子、前山三枝子、岸野奈津子、井内ゆり、岡田憲一、田中薫、久留宮由佳が、鉄器は前山・井内が、石器は古谷章子、岸野が行なった。遺構及び遺物の浄書は嘱託員が主に行なった。

7．本書に使用した写真のうち、遺構については調査員が撮影し、発掘中の空中写真撮影は関西航測株式会社および写測エンジニアリング株式会社に委託し、遺物については株式会社衣川に委託し撮影した。

8．本書の編集は深井が主に行ない、山本、深江、岡田が補佐した。

9．本書に使用した標高の数値は、本四公団の工事用B、Mを利用した海抜高（T．P．）であり、方位は座標北である。

10．本書に掲載した挿図の内、第10図は国土地理院発行の1/20万地図を使用したものであり、図版2-2図は米軍撮影の昭和20年代空中写真を使用した。なおこれらは国土地理院長の承認を得て掲載している。写真1は本州四国連絡橋公団撮影の航空写真を使用した。巻頭図版1は東浦町教育委員会提供による。

11．本書で使用した遺構番号の内、住居跡は全地区通し番号であり、土壙及び柱穴は各地区毎で呼称した。また挿図中の遺構略号は次のように（SH→住居跡、SB→掘立柱建物跡、SX→溝路・木道、P→柱穴、SK→土坑、SD→溝、SE→井戸）呼称を用いている。

12．本書の執筆分担は本文目次および文章中に示した。

13．調査で撮影した写真、遺構図、遺物等は兵庫県教育委員会で保管している。

14．最後に発掘調査ならびに本書の作成にあたっては、以下の方々の御援助・御指導・御教示をいただ

いた。記して感謝の意を表します。（以下、順不同敬称略）

建設省、㈱地球科学研究所、津名郡町村会、東浦町、東浦町教育委員会、東浦町立浦小学校、兵庫県土木部道路建設課、本州四国連絡橋公団

安孫子昭二、泉　拓良、伊東隆夫、伊藤宏幸、上野修一、浦上雅史、大野　薫、岡崎晋明、岡崎正雄、岡本　稔、奥　義次、長田正宏、加古千恵子、片山一道、鎌木義昌（故人）瓦吹　堅、喜谷美宜、木下哲夫、工藤俊樹、工楽善通、先山　徹、佐藤裕司、寒川　旭、鈴木克彦、高井悌三郎、高瀬一嘉、高田成樹、高橋　学、竹広文明、玉田芳英、丹治康明、檀原　徹、千種　浩、千葉　豊、富永　孝、長沼　孝、中野寛子、中野益男、中村健二、中村貞二、成瀬正和、西田史朗、原田哲也、東　和幸、藤田　淳、藤沼邦彦、波毛康宏、別府洋二、前田保夫、松井　章、松下まり子、南川雅男、南木睦彦、宮路淳子、三好博喜、百瀬長秀、森川幸雄、八重樫純樹、家根祥多、矢野健一、山田昌久、脇田　晃、渡辺修一、渡辺　誠、和田秀寿、藁科哲男

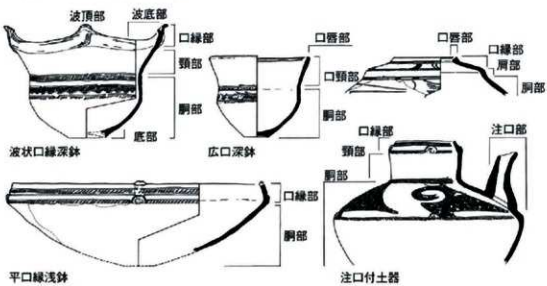
凡　例

縄文時代後期中葉・元住吉山式土器の記述について

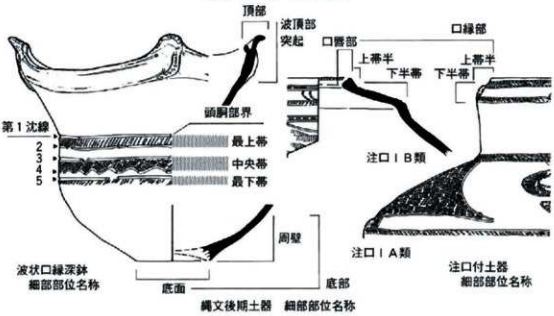
1．掲載遺物は出土遺物総体の一部である。層位的に多量の遺物出土をみた南区（M20・L20区）下層の土器を中心に掲載する方針に従い、復元可能個体および有文口縁部等を主にして抽出、掲載した。したがって、出土遺物の全体を表現するよう努めてはいるものの、図示された資料によって量的比率が示されているわけではない。

2．遺物実測図の掲載にあたっては、原則として縮尺1/3に統一した。ただし、一部の大型品に限って、縮尺1/4にて掲載している。

3．掲載土器の記述説明においては、以下図示の部位名称を用いた。また、器種の分類概念については第12章第1節（第2分冊）を、文様固有名称や器面調整等については写真図版・元住吉山式土器各種カタログ（第3分冊）を参照されたい。



縄文後期土器　各部位名称



縄文後期土器　細部部位名称

目　次

構成

第１分冊（本文編）
第２分冊（自然科学・総括編）
第３分冊（写真図版編）
第４分冊（レファレンス編－個遺跡のすべて－）

第１分冊（本文編）

第１章　調査に至る経緯と経過
第１節　調査に至る経緯……〔吉田　昇・深井明比古〕　1
第２節　第１次調査（確認調査）……〔吉田・藤田　淳〕　4
第３節　第２次調査（全面調査）……〔山本　誠〕　7
第４節　第３次調査（全面調査）……〔山本〕　10
第５節　整理作業……〔山本・深江英憲〕　12
第６節　調査後の遺跡・遺物及び資料……〔深井〕　14

第２章　遺跡の環境
第１節　地理的環境……〔深井〕　25
第２節　歴史的環境……〔深井〕　28

第３章　地形の成因と基本層序
第１節　地形の成因……〔山本〕　37
第２節　基本層序・文化層の認識……〔山本〕　37
第３節　遺跡の移り変わり……〔山本〕　44

第４章　縄文最下層の遺構・遺物
第１節　遺構……〔山本〕　47
第２節　土器……〔山本・岡田憲一〕　52
第３節　石器……〔山本〕　70

第５章　縄文下層南区の遺構・遺物
第１節　遺構……〔山本〕　71
第２節　液状化跡……〔深井〕　81
第３節　土器・土製品……〔岡田・深井〕　83
第４節　石器……〔山本〕　243
第５節　木製品……〔深江〕　311

第6節　その他の遺物……〔深井〕 315

第6章　縄文下層北・中央区の遺構・遺物

第1節　遺構……〔山本〕 317
第2節　土器・土偶……〔岡田・深井〕 324
第3節　石器……〔山本〕 331
第4節　その他の遺物……〔深井〕 337

第7章　縄文中層の遺構・遺物

第1節　遺構……〔山本〕 339
第2節　土器……〔岡田・深井〕 347
第3節　石器……〔山本〕 357

第8章　縄文上層の遺構・遺物

第1節　北区の遺構……〔山本〕 367
第2節　中央区・南区の遺構……〔山本〕 375
第3節　土器・土製品・石製品……〔岡田・深江・深井〕 377
第4節　石器……〔山本〕 401

第9章　弥生～奈良時代の遺構・遺物

第1節　遺構……〔山本〕 427
第2節　土器……〔多賀・深江〕 433
第3節　木製品……〔深江〕 442

第10章　中世の遺構・遺物

第1節　遺構……〔山本〕 445
第2節　液状化跡……〔深井・深江〕 453
第3節　土器……〔深江〕 455
第4節　金属器……〔深江〕 459
第5節　木製品……〔深江〕 461

第2分冊（自然科学・総括編）

第11章　自然科学分析

第1節　個遺跡の自然科学による調査……〔前田保夫・深井明比古〕 1
第2節　個遺跡火山灰分析結果……〔樽原　徹〕 9
第3節　個遺跡周辺の縄文海岸線復元について……〔前田保夫〕 19
第4節　堆積物の珪藻分析にもとづく縄文海進期の個遺跡およびその周辺域の堆積環境……〔佐藤裕司〕 23
第5節　個遺跡周辺地域の花粉分析……〔前田保夫・松下まり子〕 35

第6節　佃遺跡出土の大型植物遺体……〔宮路淳子・南木睦彦〕 39
第7節　佃遺跡出土の動物遺存体……〔片山一道・松井　章・宮路淳子〕 53
第8節　佃遺跡出土古人骨の炭素窒素同位体分析による食性解析……〔南川雅男〕 75
第9節　佃遺跡出土木製品の樹種……〔伊東隆夫〕 79
第10節　佃遺跡出土編物について……〔渡辺　誠〕 85
第11節　佃遺跡出土軽石の火山ガラス分析……〔西田史朗〕 89
第12節　佃遺跡出土のサヌカイト製遺物の石材産地分析……〔藁科哲男〕 95
第13節　佃遺跡から出土した赤色顔料関係遺物……〔成瀬正和〕 107
第14節　佃遺跡から出土した埋甕・土壙に残存する脂肪の分析……〔中野益男・中野寛子・長田正宏〕 115
第15節　佃遺跡で検出された地震の痕跡……〔寒川　旭〕 125
第16節　佃遺跡の放射性炭素年代測定結果……〔株式会社地球科学研究所〕 133

第12章　総括

第1節　佃遺跡の縄文時代後期の自然景観……〔前田保夫〕 137
第2節　佃遺跡出土縄文土器の編年－特に元住吉山式土器について－……〔岡田憲一・深井明比古〕 139
第3節　縄文時代の石器……〔山本　誠〕 165
第4節　縄文晩期の墓制について－佃遺跡の土壙墓・埋甕及び埋設土器を中心に－……〔深江英憲〕 181
第5節　佃遺跡土偶の出土意義と今後の土偶研究……〔深井明比古〕 187
第6節　佃遺跡の総合評価……〔深井明比古〕 193

英語要旨　English Summary

A Research of Tsukuda Site in Higashiura Town, Tsuna County, Hyogo Prefecture, in Japan …201

第3分冊（写真図版編）

第4分冊（レファレンス編－佃遺跡のすべて－）

縄文時代の遺跡
佃遺跡の時代
縄文人のくらし
くらしの道具
食糧
まつり
各地との交流

巻頭図版目次

第1分冊

巻頭図版1	佃遺跡縄文時代後期のムラの様子イラスト（東浦町史から）
巻頭図版2・3	佃遺跡空中写真遠景（南から）1991.12.19撮影
	ランドサットからの写真（1982～1983年撮影）
巻頭図版4・5	南区木道出土地遠景写真（南から）
	木道写真
	南区縄文後期中葉の木道と貯蔵穴検出写真
巻頭図版6・7	縄文後期中葉・後葉の土器
巻頭図版8	縄文の森　イチイガシ

挿図目次

第1分冊

第1章第1節	第1図	淡路縦貫道位置図 ……1
	第2図	佃遺跡周辺図 ……3
第1章第2節	第3図	確認調査位置図及び土層柱状図 ……5
第1章第3節	第4図	全面調査地区割り図 ……7
	第5図	調査区設定図 ……9
第1章第4節	第6図	北区地区割り図 ……10
第1章第6節	第7図	貯蔵穴立体剥取収蔵計画図 ……20
第2章第1節	第8図	淡路島周辺の地形と活断層及び埋谷面図 ……25
	第9図	淡路島及びその周辺地域の地質図 ……26
第2章第2節	第10図	淡路島の主要遺跡 ……30
	第11図	佃遺跡周辺の遺跡 ……31
第3章第2節	第12図	佃遺跡周辺等高線図 ……39
	第13図	土層断面図-1 ……40
	第14図	土層断面図-2 ……41
第3章第3節	第15図	遺構面ステージ図-1 ……42
	第16図	遺構面ステージ図-2 ……43
第4章第1節	第17図	縄文最下層遺構配置図 ……47
	第18図	北区縄文最下層土坑配置図 ……48
	第19図	中央区縄文最下層住居跡（ＳＨ501） ……50
	第20図	縄文最下層各地区土坑 ……51
第4章第2節	第21図	縄文最下層出土早期後葉～前期初頭土器 ……53
	第22図	縄文最下層出土前期末～中期前葉土器 ……53
	第23図	縄文最下層出土中期土器-1 ……54
	第24図	縄文最下層出土中期土器-2 ……55

第25図　縄文最下層出土中期土器-3 ……57
第26図　縄文最下層出土中期土器-4 ……58
第27図　縄文最下層出土中期土器-5 ……59
第28図　縄文最下層出土中期土器-6 ……60
第29図　縄文最下層出土中期土器-7 ……61
第30図　縄文最下層出土中期土器-8 ……62
第31図　縄文最下層出土中期土器-9 ……64
第32図　縄文最下層遺構出土後期土器（ＳＫ509）-1 ……66
第33図　縄文最下層遺構出土後期土器（ＳＫ509）-2 ……67
第34図　縄文最下層相当の後期土器-1 ……68
第35図　縄文最下層相当の後期土器-2 ……69
第4章第3節　第36図　縄文最下層出土石鏃 ……70
第5章第1節　第37図　縄文下層遺構配置図 ……71
第38図　中央区・南区縄文下層遺構配置図 ……72
第39図　南区縄文下層低湿地貯蔵穴群-1 ……74
第40図　南区縄文下層低湿地貯蔵穴群-2 ……75
第41図　南区縄文下層低湿地木道・貯蔵穴群（N21区）……76
第42図　南区縄文下層土坑群（ＳＫ465～468）（N19区）……77
第43図　南区縄文下層土器溜り（M19区）……78
第44図　南区縄文下層サヌカイト分割原石の集積（M20区）……78
第5章第2節　第45図　南区縄文下層液状化跡（噴砂）検出位置図 ……81
第5章第3節　第46図　南区縄文下層遺構出土後期土器（ＳＫ456～460）……84
第47図　南区縄文下層遺構出土後期土器（ＳＫ462）……85
第48図　南区縄文下層遺構出土後期土器（ＳＤ451）-1 ……86
第49図　南区縄文下層遺構出土後期土器（ＳＤ451）-2 ……87
第50図　南区縄文下層遺構出土後期土器（ＳＤ451）-3 ……89
第51図　南区縄文下層23層出土後期土器-1 ……90
第52図　南区縄文下層23層出土後期土器-2 ……91
第53図　南区縄文下層23層出土後期土器-3 ……93
第54図　南区縄文下層14・15・23層出土後期土器-1 ……94
第55図　南区縄文下層14・15・23層出土後期土器-2 ……95
第56図　南区縄文下層12・19層出土後期土器 ……97
第57図　南区縄文下層13・11層出土後期土器 ……100
第58図　南区縄文下層9層出土後期土器-1 ……101
第59図　南区縄文下層9層出土後期土器-2 ……102
第60図　南区縄文下層9層出土後期土器-3 ……103
第61図　南区縄文下層9層出土後期土器-4 ……104
第62図　南区縄文下層9層出土後期土器-5 ……105

第63図　南区縄文下層9層出土後期土器-6 ……108
第64図　南区縄文下層9層出土後期土器-7 ……109
第65図　南区縄文下層9層出土後期土器-8 ……110
第66図　南区縄文下層9層出土後期土器-9 ……111
第67図　南区縄文下層8・10層出土後期土器（N・O20～22区）-1 ……114
第68図　南区縄文下層8・10層出土後期土器（N・O20～22区）-2 ……115
第69図　南区縄文下層8・10層出土後期土器（N・O20～22区）-3 ……116
第70図　南区縄文下層8・10層出土後期土器（N・O20～22区）-4 ……117
第71図　南区縄文下層8・10層出土後期土器（N・O20～22区）-5 ……118
第72図　南区縄文下層8・10層出土後期土器（N・O20～22区）-6 ……119
第73図　南区縄文下層8・10層出土後期土器（M20区最下部）-1 ……122
第74図　南区縄文下層8・10層出土後期土器（M20区最下部）-2 ……123
第75図　南区縄文下層8・10層出土後期土器（M20区最下部）-3 ……126
第76図　南区縄文下層8・10層出土後期土器（M20区最下部）-4 ……127
第77図　南区縄文下層8・10層出土後期土器（M20区最下部）-5 ……128
第78図　南区縄文下層8・10層出土後期土器（M20区最下部）-6 ……129
第79図　南区縄文下層8・10層出土後期土器（M20区8・7回目）-1 ……131
第80図　南区縄文下層8・10層出土後期土器（M20区8・7回目）-2 ……132
第81図　南区縄文下層8・10層出土後期土器（M20区7回目） ……133
第82図　南区縄文下層8・10層出土後期土器（M20区7～5回目） ……134
第83図　南区縄文下層8・10層出土後期土器（M20区5回目） ……135
第84図　南区縄文下層8・10層出土後期土器（M20区4回目）-1 ……137
第85図　南区縄文下層8・10層出土後期土器（M20区4回目）-2 ……138
第86図　南区縄文下層8・10層出土後期土器（M20区4回目）-3 ……139
第87図　南区縄文下層8・10層出土後期土器（M20区4回目）-4 ……140
第88図　南区縄文下層8・10層出土後期土器（M20区4回目）-5 ……141
第89図　南区縄文下層8・10層出土後期土器（M20区3回目）-1 ……144
第90図　南区縄文下層8・10層出土後期土器（M20区3回目）-2 ……145
第91図　南区縄文下層8・10層出土後期土器（M20区3回目）-3 ……146
第92図　南区縄文下層8・10層出土後期土器（M20区3回目）-4 ……147
第93図　南区縄文下層8・10層出土後期土器（M20区3回目）-5 ……148
第94図　南区縄文下層8・10層出土後期土器（M20区1・2回目）-1 ……150
第95図　南区縄文下層8・10層出土後期土器（M20区1・2回目）-2 ……151
第96図　南区縄文下層8・10層出土後期土器（M20区1・2回目）-3 ……152
第97図　南区縄文下層8・10層出土後期土器（M20区1・2回目）-4 ……153
第98図　南区縄文下層8・10層出土後期土器（M20区1・2回目）-5 ……154
第99図　南区縄文下層8・10層出土後期土器（M20区1回目）-1 ……156
第100図　南区縄文下層8・10層出土後期土器（M20区1回目）-2 ……157

第101図　南区縄文下層8・10層出土後期土器（M20区1回目）-3 ……158
第102図　南区縄文下層8・10層出土後期土器（M20区1回目）-4 ……159
第103図　南区縄文下層8・10層出土後期土器（M20区1回目）-5 ……160
第104図　南区縄文下層8・10層出土後期土器（L20区7回目）-1 ……161
第105図　南区縄文下層8・10層出土後期土器（L20区7回目）-2 ……162
第106図　南区縄文下層8・10層出土後期土器（L20区7回目）-3 ……163
第107図　南区縄文下層8・10層出土後期土器（L20区6・5回目）……166
第108図　南区縄文下層8・10層出土後期土器（L20区5回目）……167
第109図　南区縄文下層8・10層出土後期土器（L20区4回目）-1 ……168
第110図　南区縄文下層8・10層出土後期土器（L20区4回目）-2 ……169
第111図　南区縄文下層8・10層出土後期土器（L20区4回目）-3 ……170
第112図　南区縄文下層8・10層出土後期土器（L20区4回目）-4 ……171
第113図　南区縄文下層8・10層出土後期土器（L20区4回目）-5 ……172
第114図　南区縄文下層8・10層出土後期土器（L20区4回目）-6 ……173
第115図　南区縄文下層8・10層出土後期土器（L20区3回目）-1 ……175
第116図　南区縄文下層8・10層出土後期土器（L20区3回目）-2 ……176
第117図　南区縄文下層8・10層出土後期土器（L20区3～1回目）……177
第118図　南区縄文下層8・10層出土後期土器（L20区1・2回目）-1 ……178
第119図　南区縄文下層8・10層出土後期土器（L20区1・2回目）-2 ……179
第120図　南区縄文下層8・10層出土後期土器（L20区1・2回目）-3 ……180
第121図　南区縄文下層8・10層出土後期土器-1 ……182
第122図　南区縄文下層8・10層出土後期土器-2 ……183
第123図　南区縄文下層8・10層出土後期土器-3 ……185
第124図　南区縄文下層8・10層出土後期土器-4 ……186
第125図　南区縄文下層8・10層出土後期土器-5 ……187
第126図　南区縄文下層8・10層出土後期土器-6 ……188
第127図　南区縄文下層8・10層出土後期土器-7 ……189
第128図　南区縄文下層8・10層出土後期土器-8 ……190
第129図　南区縄文下層8・10層出土後期土器-9 ……191
第130図　南区縄文下層8・10層出土後期土器-10 ……193
第131図　南区縄文下層8・10層出土後期土器-11 ……194
第132図　南区縄文下層8・10層出土後期土器-12 ……195
第133図　南区縄文下層8・10層出土後期土器-13 ……196
第134図　南区縄文下層8・10層出土後期土器-14 ……198
第135図　南区縄文下層8・10層出土後期土器-15 ……199
第136図　南区縄文下層8・10層出土後期土器-16 ……200
第137図　南区縄文下層8・10層出土後期土器-17 ……201
第138図　南区縄文下層8・10層出土後期土器-18 ……202

第139図　南区縄文下層8・10層出土後期土器-19 ……203
第140図　南区縄文下層8・10層出土後期土器-20 ……204
第141図　南区縄文下層8・10層出土後期土器-21 ……205
第142図　南区縄文下層8・10層出土後期土器-22 ……206
第143図　南区縄文下層8・10層出土後期土器-23 ……208
第144図　南区縄文下層8・10層出土後期土器-24 ……209
第145図　南区縄文下層8・10層出土後期土器-25 ……210
第146図　南区縄文下層8・10層出土後期土器-26 ……211
第147図　南区縄文下層8・10層出土後期土器-27 ……212
第148図　南区縄文下層8・10層出土後期土器-28 ……213
第149図　南区縄文下層8・10層出土後期土器-29 ……215
第150図　南区縄文下層8・10層出土後期土器-30 ……218
第151図　南区縄文下層8・10層出土後期土器-31 ……219
第152図　南区縄文下層8・10層出土後期土器-32 ……220
第153図　南区縄文下層8・10層出土後期土器-33 ……221
第154図　南区縄文下層8・10層出土後期土器-34 ……222
第155図　南区縄文下層8・10層出土後期土器-35 ……223
第156図　南区縄文下層8・10層出土後期土器-36 ……224
第157図　南区縄文下層8・10層出土後期土器-37 ……225
第158図　南区縄文下層8・10層出土後期土器-38 ……226
第159図　南区縄文下層8・10層出土後期土器-39 ……227
第160図　南区縄文下層8・10層出土後期土器-40 ……228
第161図　南区縄文下層8・10層出土後期土器-41 ……229
第162図　南区縄文下層8・10層出土後期土器-42 ……230
第163図　南区縄文下層8・10層出土後期土器-43 ……231
第164図　南区縄文下層8・10層出土後期土器-44 ……232
第165図　南区縄文下層8・10層出土後期土器-45 ……233
第166図　南区縄文下層8・10層出土後期土器-46 ……235
第167図　南区縄文下層8・10層出土後期土器-47 ……236
第168図　南区縄文下層8・10層出土後期土器-48 ……237
第169図　南区縄文下層出土土製品-1 ……240
第170図　南区縄文下層出土土製品-2 ……241
第5章第4節　第171図　石鏃形態分類 ……244
第172図　楔形石器分類 ……245
第173図　石核分類 ……246
第174図　南区縄文下層（4期）石鏃・石匙・分銅原石 ……253
第175図　南区縄文下層（3・4期）石鏃・削器・石核 ……254
第176図　南区縄文下層（4期）楔形石器 ……255

第177図　南区縄文下層（4期）石核 ……256
第178図　南区縄文下層（4期）石皿 ……257
第179図　南区縄文下層（4期）石皿・石剣 ……258
第180図　南区縄文下層（4期）石皿・石錘・凹石 ……259
第181図　南区縄文下層（5期）石鏃-1 ……260
第182図　南区縄文下層（5期）石鏃-2 ……261
第183図　南区縄文下層（5期）石鏃-3 ……262
第184図　南区縄文下層（5期）石鏃-4 ……263
第185図　南区縄文下層（5期）石鏃-5 ……264
第186図　南区縄文下層（5期）石鏃-6 ……265
第187図　南区縄文下層（5期）石鏃-7 ……266
第188図　南区縄文下層（5期）石鏃-8 ……267
第189図　南区縄文下層（5期）石鏃-9 ……268
第190図　南区縄文下層（5期）石錐・石匙 ……269
第191図　南区縄文下層（5期）削器-1 ……270
第192図　南区縄文下層（5期）削器-2 ……271
第193図　南区縄文下層（5期）削器-3 ……272
第194図　南区縄文下層（5期）削器-4 ……273
第195図　南区縄文下層（5期）削器-5 ……274
第196図　南区縄文下層（5期）加工痕のある剥片・使用痕のある剥片 ……275
第197図　南区縄文下層（5期）使用痕のある剥片 ……276
第198図　南区縄文下層（5期）楔形石器-1 ……277
第199図　南区縄文下層（5期）楔形石器-2 ……278
第200図　南区縄文下層（5期）楔形石器-3 ……279
第201図　南区縄文下層（5期）楔形石器-4 ……280
第202図　南区縄文下層（5期）楔形石器-5 ……281
第203図　南区縄文下層（5期）楔形石器-6 ……282
第204図　南区縄文下層（5期）石核-1 ……283
第205図　南区縄文下層（5期）石核-2 ……284
第206図　南区縄文下層（5期）石核-3 ……285
第207図　南区縄文下層（5期）分割原石-1 ……286
第208図　南区縄文下層（5期）分割原石-2 ……287
第209図　南区縄文下層（5期）分割原石-3 ……288
第210図　南区縄文下層（5期）分割原石-4 ……289
第211図　南区縄文下層（5期）石皿 ……290
第212図　南区縄文下層（5期）石皿・石剣 ……291
第213図　南区縄文下層（5期）石皿・石斧 ……292
第214図　南区縄文下層（5期）石錘 ……293

第215図　南区縄文下層（5期）凹石 ……294
第216図　トレンチ調査出土石鏃 ……295
第217図　トレンチ調査出土石鏃・石匙・石錐 ……296
第218図　トレンチ調査出土削器・使用痕のある剥片 ……297
第219図　トレンチ調査出土使用痕のある剥片 ……298
第220図　トレンチ調査出土石皿・石斧・石錘 ……299
第221図　原位置から遊離した石鏃 ……300
第222図　原位置から遊離した石鏃・石錐・石匙・削器 ……301
第223図　原位置から遊離した削器・加工痕のある剥片・使用痕のある剥片 ……302
第224図　原位置から遊離した使用痕のある剥片 ……303
第225図　原位置から遊離した石核-1 ……304
第226図　原位置から遊離した石核-2 ……305
第227図　原位置から遊離した石核-3 ……306
第228図　原位置から遊離した分割原石 ……307
第229図　原位置から遊離した石皿・石斧 ……308
第230図　原位置から遊離した石皿・石錘・凹石 ……309
第231図　原位置から遊離した凹石 ……310
第5章第5節　第232図　南区縄文最下層出土木道-1 ……312
第233図　南区縄文最下層出土木道-2 ……313
第234図　南区縄文最下層出土木製品 ……314
第5章第6節　第235図　骨角器 ……315
第6章第1節　第236図　縄文下層遺構配置図 ……317
第237図　北区縄文下層遺構 ……318
第238図　中央区縄文下層遺構 ……319
第239図　北区縄文下層土坑（ＳＫ401・ＳＫ421・ＳＫ411）……320
第240図　中央区縄文下層住居跡（ＳＨ406）……321
第241図　中央区縄文下層土坑（ＳＫ412～ＳＫ414）……321
第242図　北区縄文下層石剣・砥石出土状態（M13区）……323
第6章第2節　第243図　北・中央区縄文下層遺構出土後期土器-1 ……325
第244図　北・中央区縄文下層遺構出土後期土器-2 ……326
第245図　北・中央区縄文下層遺構出土後期土器-3（ＳＫ412）……327
第246図　北・中央区縄文下層遺構出土後期土器-4・縄文下層出土土器 ……328
第247図　北・中央区縄文下層出土土器 ……329
第248図　北・中央区縄文下層出土土製品 ……330
第6章第3節　第249図　北・中央区縄文下層出土石鏃 ……332
第250図　北・中央区縄文下層出土石器-1 ……333
第251図　北・中央区縄文下層出土使用痕のある剥片・加工痕のある剥片・石核 …334
第252図　北・中央区縄文下層出土石皿 ……335

第253図　北・中央区縄文下層出土砥石・石剣 ……336
第7章第1節　第254図　縄文中層遺構配置図 ……339
第255図　北・中央区縄文中層貯蔵穴群 ……340
第256図　北・中央区縄文中層貯蔵穴-1 ……342
第257図　北・中央区縄文中層貯蔵穴-2 ……343
第258図　北・中央区縄文中層貯蔵穴-3 ……344
第259図　北・中央区縄文中層貯蔵穴-4 ……345
第7章第2節　第260図　北・中央区縄文中層遺構出土土器（ＳＫ336） ……347
第261図　北・中央区縄文中層出土後期土器-1 ……348
第262図　北・中央区縄文中層出土後期土器-2 ……349
第263図　北・中央区縄文中層出土後期土器-3 ……351
第264図　北・中央区縄文中層出土後期土器-4 ……352
第265図　北・中央区縄文中層出土後期土器-5 ……353
第266図　北・中央区縄文中層出土後期土器-6 ……354
第267図　北・中央区縄文中層出土後期土器-7 ……355
第268図　北・中央区縄文中層出土後期土器-8 ……356
第269図　北・中央区縄文中層出土石鏃・石匙・削器 ……359
第270図　北・中央区縄文中層出土加工痕のある剥片・使用痕のある剥片 ……360
第271図　北・中央区縄文中層出土石核-1 ……361
第272図　北・中央区縄文中層出土石核-2 ……362
第273図　北・中央区縄文中層出土石皿・凹石・石斧 ……363
第274図　南区縄文中層（6期）石鏃・石錐・削器・石核 ……364
第275図　南区縄文中層（6期）楔形石器 ……365
第8章第1節　第276図　縄文上層遺構配置図 ……367
第277図　北区縄文上層遺構 ……368
第278図　北区縄文上層住居跡群（ＳＨ201・ＳＨ202） ……369
第279図　北区縄文上層埋設土器・土壙墓群 ……370
第280図　北区縄文上層埋設土器 ……371
第281図　北区縄文上層サヌカイト分割原石集積土坑 ……372
第8章第2節　第282図　中央区・南区縄文上層掘立柱建物跡（ＳＢ201） ……375
第283図　中央区・南区縄文上層遺構 ……376
第8章第3節　第284図　縄文上層出土後期土器-1 ……379
第285図　縄文上層出土後期土器-2 ……380
第286図　縄文上層出土後・晩期土器 ……381
第287図　各地区各層出土縄文後期土器-1 ……382
第288図　各地区各層出土縄文後期土器-2 ……383
第289図　縄文上層出土晩期土器（ＳＨ201） ……386
第290図　縄文上層出土晩期埋設土器-1 ……388

第291図　縄文上層出土晩期埋設土器-2 ……389
第292図　縄文上層出土晩期前・中葉深鉢-1 ……391
第293図　縄文上層出土晩期前・中葉深鉢-2 ……393
第294図　縄文上層出土晩期前・中葉浅鉢-1 ……394
第295図　縄文上層出土晩期前・中葉浅鉢-2 ……395
第296図　縄文上層出土晩期後葉突帯文土器 ……398
第297図　孔列土器 ……400
第298図　縄文上層出土土製品・石製品 ……400
第8章第4節　第299図　北・中央区縄文上層出土石鏃・尖頭器 ……403
第300図　北・中央区縄文上層出土石鏃・石匙・削器 ……404
第301図　北・中央区縄文上層出土削器-2 ……405
第302図　北・中央区縄文上層出土削器-3・使用痕のある剥片・加工痕のある剥片 …406
第303図　北・中央区縄文上層出土石核 ……407
第304図　北・中央区縄文上層出土使用痕のある剥片・分割原石 ……408
第305図　北・中央区縄文上層出土分割原石-1 ……409
第306図　北・中央区縄文上層出土分割原石-2 ……410
第307図　北・中央区縄文上層出土分割原石-3 ……411
第308図　北・中央区縄文上層出土分割原石-4 ……412
第309図　北・中央区縄文上層出土分割原石-5 ……413
第310図　北・中央区縄文上層出土分割原石-6 ……414
第311図　北・中央区縄文上層出土石皿・石刀 ……415
第312図　北・中央区縄文上層出土石皿 ……416
第313図　北・中央区縄文上層出土石斧・石錘・凹石 ……417
第314図　南区縄文上層（6期）石鏃-1 ……418
第315図　南区縄文上層（6期）石鏃-2 ……419
第316図　南区縄文上層（6期）石錐・石匙・削器・加工痕のある剥片・使用痕のある剥片…420
第317図　南区縄文上層（6期）使用痕のある剥片 ……421
第318図　南区縄文上層（6期）楔形石器 ……422
第319図　南区縄文上層（6期）石核 ……423
第320図　南区縄文上層（6期）石斧・石剣・石錘 ……424
第321図　南区縄文上層（6期）石皿 ……425
第9章第1節　第322図　弥生～古墳時代遺構配置図 ……427
第323図　北区弥生～古墳時代遺構 ……428
第324図　弥生～古墳時代各遺構（ＳＤ101.ＳＤ104.ＳＲ101.ＳＸ101）……429
第325図　中央区・南区弥生～古墳時代遺構 ……430
第326図　弥生～古墳時代溝（ＳＤ105）……431
第327図　弥生～古墳時代溝（ＳＤ107）……432
第9章第2節　第328図　ＳＤ107出土縄文時代晩期後葉～弥生中期初頭土器 ……434

	第329図	弥生土器	437
	第330図	古墳～奈良時代の土器・土製品	439
	第331図	ＳＤ105出土製塩土器	440
第9章第3節	第332図	ＳＤ107出土板状木製品	442
	第333図	古墳～奈良時代木製品	443
第10章第1節	第334図	中世遺構配置図	445
	第335図	北区中世遺構	446
	第336図	北区中世掘立柱建物跡（ＳＢ001～003）	447
	第337図	北区中世土坑（ＳＫ001・ＳＫ002）	448
	第338図	北区中世遺構（ＳＤ001・ＳＥ001）	448
	第339図	北区中世井戸（ＳＥ001）	449
	第340図	北区中世水田跡	450
	第341図	南区中世遺構	451
	第342図	南区中世土坑（ＳＫ003）	452
第10章第2節	第343図	北区中世未液状化跡	453
第10章第3節	第344図	中世土器・土製品	457
第10章第4節	第345図	中世金属製品	459
第10章第5節	第346図	中世木製品	462

第2分冊

第11章第1節	第1図	鬼界アカホヤ火山灰（K-Ah）の等層厚線図と主な産出地点	2
	第2図	イチイガシの天然分布	4
第11章第2節	第1図	一般的な火山灰分析処理順序表	9
第11章第3節	第1図	浦沖積低地の縄文海岸線	20
第11章第4節	第1図	調査地点位置図	23
	第2図	遺跡トレンチにおける堆積物試料の採取位置	25
	第3図	南区トレンチ断面における珪藻遺骸群集の出現状況	26
	第4図	浦小学校コアの層相、イオウ含有量および珪藻遺骸群集の出現状況	26
第11章第5節	第1図	個遺跡から産出した花粉化石ダイアグラム	36
第11章第7節	第1図	個遺跡出土動物遺存体	55
	第2図	No.2284・3962の人骨遺存部位	57
	第3図	全地区における動物遺存体出土量	60
	第4図	南区における動物遺存体出土量	60
第11章第8節	第1図	縄文時代後晩期および弥生時代の人骨同位体組成の比較	76
	第2図	個遺跡人の食物構成	77
第11章第10節	第1図	個遺跡出土編物実測図	87
	第2図	布勢遺跡出土カゴ実測図	88
	第3図	真脇遺跡出土編物実測図	88

第11章第11節　第1図　個遺跡軽石（2947・2962）の化学組成 ……92
第2図　個遺跡軽石（3008・3090）の化学組成 ……93
第11章第12節　第1図　サヌカイト及びサヌカイト様岩石の原産地 ……96
第11章第13節　第1図　試料（土器） ……108
第2図　試料（土器） ……109
第3図　試料（土器および石器） ……110
第4図　試料（石器） ……111
第11章第14節　第1図　試料採取位置 ……117
第2図　試料中に残存する脂肪の脂肪酸組成 ……119
第3図　試料中に残存する脂肪酸のステロール組成 ……120
第4図　試料中に残存する脂肪の脂肪酸組成樹状構造図 ……121
第5図　試料中に残存する脂肪の脂肪酸組成による種特異性相関 ……122
第11章第15節　第1図　噴砂の断面形態 ……126
第2図　噴砂の粒径加積曲線 ……126
第3図　液状化現象のメカニズム ……126
第4図　液状化跡の模式図 ……127
第5図　砂脈群Ａの平面図 ……128
第6図　砂脈群Ｂの平面図 ……128
第7図　砂脈ｇの断面図 ……129
第8図　砂脈ｇの液状化層と噴砂の粒径加積曲線 ……129
第9図　砂脈f・ｇの断面図 ……129
第10図　砂脈ａ′の断面図 ……129
第11図　砂脈ｃの平面形 ……130
第12図　砂脈ｃの断面形 ……130
第13図　大阪平野周辺の活断層と伏見地震の可能性が高い地震跡を検出した遺跡 …131
第12章第1節　第1図　縄文の夜明け ……138
第12章第2節　第2図　口縁部形態分類模式図 ……139
第3図　頸胴部形態分類模式図（深鉢形土器） ……143
第4図　器種分類模式図（1）鉢形土器 ……143
第5図　器種分類模式図（2）注口付土器 ……143
第6図　有文・無文土器の消長 ……144
第7図　個４期の平口縁深鉢 ……147
第8図　鉢形土器の変遷 ……148
第9図　沈線文・凹線文相互文様帯の対応関係 ……150
第10図　土器製作者の道具箱の変化 ……152
第11図　文様要素の消長 ……153
第12図　注口付土器の変遷 ……154
第13図　個４期異系統土器の連関 ……158

	第14図	ＳＤ451縄文地土器における技法との相関 …… 161
	第15図	底部形態の消長 …… 161
第12章第4節	第16図	土壙墓・土器棺・埋設土器配置図 …… 184
第12章第5節	第17図	個遺跡土偶・土製品実測図 …… 190
第12章第6節	第18図	個遺跡周辺縄文遺跡分布図 …… 198

表目次

第1分冊

第1章第6節	第1表	剥取り等資料一覧 …… 16
第3章第2節	第2表	文化層関係表 …… 38
第4章第1節	第3表	縄文最下層土坑一覧 …… 49
第4章第3節	第4表	北区・中央区縄文最下層石器組成表 …… 70
	第5表	北区・中央区縄文最下層楔形石器分類表 …… 70
	第6表	北区・中央区縄文最下層石鏃類型分類表 …… 70
第5章第1節	第7表	南区縄文下層貯蔵穴一覧表 …… 73
第5章第4節	第8表	南区縄文下層楔形石器平均値 …… 247
	第9表	南区縄文下層3期石器組成表 …… 248
	第10表	南区縄文下層4期石器組成表 …… 248
	第11表	南区縄文下層5期石器組成表 …… 248
	第12表	南区縄文下層3期石鏃類型分類表 …… 249
	第13表	南区縄文下層3期楔形石器類型分類表 …… 249
	第14表	南区縄文下層4期石鏃類型分類表 …… 249
	第15表	南区縄文下層4期楔形石器類型分類表 …… 249
	第16表	南区縄文下層5期石鏃類型分類表 …… 250
	第17表	南区縄文下層5期楔形石器類型分類表 …… 250
	第18表	南区先行トレンチ出土石鏃類型分類表 …… 250
	第19表	南区先行トレンチ出土楔形石器類型分類表 …… 250
	第20表	石鏃原位置遊離遺物類型分類表 …… 251
	第21表	楔形石器原位置遊離遺物分類表 …… 251
	第22表	北・中央区下層石鏃類型分類表 …… 251
	第23表	北・中央区下層楔形石器類型分類表 …… 251
	第24表	南区先行トレンチ出土石器組成表 …… 252
	第25表	原位置遊離遺物石器組成表 …… 252
第6章第1節	第26表	北・中央区下層住居跡一覧表 …… 319
	第27表	北・中央区下層土坑一覧表 …… 322
第6章第3節	第28表	北・中央区縄文下層石鏃類型分類表 …… 331
	第29表	北・中央区縄文下層楔形石器分類表 …… 331
	第30表	北・中央区縄文下層石器組成表 …… 331

第7章第1節　第31表　北・中央区縄文中層土坑一覧表 ……341
第7章第3節　第32表　北・中央区縄文中層石器組成表 ……357
第33表　南区縄文中層石器組成表 ……357
第34表　北・中央区縄文中層石鏃類型分類表 ……358
第35表　北・中央区縄文中層楔形石器分類表 ……358
第36表　南区縄文中層石鏃類型分類表 ……358
第37表　南区縄文中層楔形石器分類表 ……358
第8章第1節　第38表　北区縄文上層住居跡一覧表 ……372
第39表　北区縄文上層土壙墓一覧表 ……373
第8章第4節　第40表　北・中央区縄文上層石器組成表 ……401
第41表　南区縄文上層石器組成表 ……401
第42表　北・中央区縄文上層石鏃類型分類表 ……402
第43表　北・中央区縄文上層楔形石器分類表 ……402
第44表　南区縄文上層石鏃類型分類表 ……402
第45表　南区縄文上層楔形石器分類表 ……402

第2分冊

第11章第2節　第1表　個遺跡で検出された火山灰の重鉱物組成 ……10
第2表　各試料の測定結果と鬼界－アカホヤ火山灰との比較 ……11
第3表　日本列島とその周辺地域で過去約30万年間におこった巨大噴火による広域テフラ層のリスト …12
第4表　火山ガラス屈折率測定結果一覧表 ……15
第5表　鉱物の屈折率測定結果一覧表 ……16
第11章第6節　第1表　個遺跡出土の植物遺体（木本）……42
第2表　個遺跡出土の植物遺体（草本）……43
第3表　個遺跡出土の植物遺体種名表 ……44
第4表　遺跡周辺の植生と植物相（木本）……45
第5表　イチイガシが産出した遺跡一覧 ……46
第6表　草本植物群 ……47
第11章第7節　第1表　個遺跡出土動物遺存体の種名表 ……54
第2表　イノシシ第3後臼歯計測値および咬耗指数 ……55
第3表　ニホンジカの歯牙咬耗状況 ……56
第4表　個遺跡地区動物遺存体出土量 ……60
第5表　哺乳類部位別出土量 ……63
第6表　個遺跡出土動物遺存体一覧表-1 ……64
第7表　個遺跡出土動物遺存体一覧表-2 ……65
第8表　個遺跡出土動物遺存体一覧表-3 ……66
第9表　個遺跡出土動物遺存体一覧表-4 ……67
第10表　個遺跡出土動物遺存体一覧表-5 ……68

第11表　個遺跡出土動物遺存体一覧表-6 ……69
第12表　個遺跡出土動物遺存体一覧表-7 ……70
第13表　個遺跡出土動物遺存体一覧表-8 ……71
第14表　個遺跡出土動物遺存体一覧表-9 ……72
第11章第8節　第1表　タンパク質成分の炭素／窒素同位体分析の結果 ……75
第2表　動物性食糧と海産物の割合 ……78
第11章第9節　第1表　個遺跡樹種同定リスト ……81
第11章第11節　第1表　個遺跡軽石試料一覧 ……89
第2表　個遺跡軽石試料の化学化成 ……90
第3表　入戸火砕流試料の化学化成 ……91
第11章第12節　第1-1表　各サヌカイトの原産地における原石群の元素比の平均値(X)と標準偏差値(σ) …97
第1-2表　各サヌカイトの原産地における原石群の元素比の平均値(X)と標準偏差値(σ) …98
第2表　岩屋原産地からのサヌカイト原石66個の分類結果 ……98
第3表　和泉・岸和田原産地からのサヌカイト原石72個の分類結果 ……98
第4表　和歌山市梅原原産地からのサヌカイト原石21個の分類結果 ……98
第5表　個遺跡出土サヌカイト製遺物の元素比分析結果 ……99
第6表　個遺跡出土のサヌカイト製遺物の原材産地推定結果 ……100
第7表　個遺跡出土の縄文時代各時期のサヌカイト製遺物の原石産地別頻度分布 …100
第11章第13節　第1表　個遺跡赤色顔料関係資料の調査結果 ……112
第11章第14節　第1表　試料の残存脂肪抽出量 ……116
第2表　試料中に分布するコレステロールとシトステロールの割合 ……121
第12章第2節　第1表　有文土器各器種間口縁部形態消長表 ……144
第2表　広域土器編年対照表 ……158
第12章第3節　第3表　南区　下層：3期 ……167
第4表　南区　下層：4期 ……167
第5表　北区　下層：5期 ……167
第6表　南区　中層：6期 ……167
第7表　南区　上層：6期 ……168
第8表　北区・中央区　下層：5期 ……168
第9表　北区・中央区　中層：6期 ……168
第10表　北区・中央区　上層：7期 ……168
第11表　石鏃　類型分類表　南区　下層（3期）……168
第12表　石鏃　類型分類表　南区　下層（4期）……169
第13表　石鏃　類型分類表　南区　下層（5期）……169
第14表　石鏃　類型分類表　南区　中層（6期）……169
第15表　石鏃　類型分類表　南区　上層（7期）……169
第16表　石鏃　類型分類表　北・中央区　最下層（2期）……170
第17表　石鏃　類型分類表　北・中央区　下層（5期）……170

第18表　石鏃　類型分類表　北・中央区　中層（6期）……170
第19表　石鏃　類型分類表　北・中央区　上層（7期）……170
第20表　楔形石器　分類表　南区　下層（5期）……171
第21表　楔形石器　分類表　南区　下層（5期）……171
第22表　楔形石器　分類表　南区　下層（4期）……171
第23表　楔形石器　分類表　北・中央区　下層……171
第24表　楔形石器　分類表　北・中央区　中層……171
第25表　楔形石器　分類表　南区　中層……171
第26表　楔形石器　分類表　北・中央区　上層……171
第27表　楔形石器　分類表　南区　上層……171
第28表　打製石器一覧-1……172
第29表　打製石器一覧-2……173
第30表　打製石器一覧-3……174
第31表　打製石器一覧-4……175
第32表　打製石器一覧-5……176
第33表　打製石器一覧-6……177
第34表　打製石器一覧-7……178
第35表　打製石器一覧-8……179
第36表　磨製石器一覧……180
第12章第5節　第37表　個遺跡土偶・土製品一覧……189

写真目次

第1分冊

第1章第1節　写真1　垂水インターチェンジから淡路島方向を望む……2
第1章第2節　写真2　坪No.6作業風景……4
写真3　坪No.27木製品出土状況……6
第1章第3節　写真4　南区縄文土器発掘作業風景……8
第1章第4節　写真5　小学生への説明風景……10
第1章第5節　写真6　土器復元風景……13
写真7　トレース風景……13
写真8　写真撮影風景……13
写真9　樹種切片採取風景……13
第1章第6節　写真10　調査後の遺跡遠景（北から）……14
写真11　調査後の遺跡全景（南から）……14
写真12　魚住分館……15
写真13　遺物収蔵状況……15
写真14　データ入力作業……15
写真15　立体測取り工程-1……22

	写真16	立体測取り工程-2	23
	写真17	立体測取り工程-3	24
第2章第1節	写真18	淡路町岩屋の大和島に残る海食痕跡	27
第2章第2節	写真19	周辺の遺跡（浦小学校創立百周年記念誌から）新阜洲賀男氏1953.10.3撮影	32.33
第3章第3節	写真20	北区（北1区）西壁写真	44
	写真21	北区（北1区）西壁土層アップ写真	44
	写真22	南区西壁土層写真	44
第5章第2節	写真23	南区M20区縄文時代噴砂検出状況	82
	写真24	噴砂の状況	82
第6章第4節	写真23	貝写真	337

第２分冊

第11章第2節	写真1	火山ガラス顕微鏡写真	17
第11章第4節	写真1	佃遺跡堆積土および浦小学校コア堆積物中の珪藻-1	33
	写真2	佃遺跡堆積土および浦小学校コア堆積物中の珪藻-2	34
第11章第6節	写真1	佃遺跡の大型植物遺体	51
第11章第7節	写真1	人骨	58
	写真2	佃遺跡出土の動物遺存体-1	73
	写真3	佃遺跡出土の動物遺存体-2	73
第11章第9節	写真1	佃遺跡出土木製品の顕微鏡写真	82
	写真2	佃遺跡出土木製品の顕微鏡写真	83
第11章第10節	写真1	佃遺跡出土編物	86
	写真2	編物の顕微鏡写真	86
	写真3	平沢同明遺跡出土網代	88
第11章第11節	写真1	分析試料	94
第11章第12節	写真1	佃遺跡サヌカイト分析試料（1）	105
	写真2	佃遺跡サヌカイト分析試料（2）	106
第11章第13節	写真1	試料35（石皿）に付着した辰砂の粒子（×100）	113
	写真2	試料12（土器）に付着した辰砂の粒子（×200）	113
第11章第15節	写真1	野島断層の活動による道路の変位（平林地区）	125
	写真2	西宮市内の埋立て地に広がった噴砂	125
	写真3	西宮市内の海岸に沿って生じた地割れ群	127
	写真4	神戸市住吉宮町遺跡で検出された井戸の変形	130
	写真5	佃遺跡の液状化跡（砂砂群A）	130
	写真6	有馬－高槻構造線活断層系のトレンチ調査	131
第12章第1節	写真1	佃遺跡を北から望む	137
第12章第5節	写真2	土偶（D11）レントゲン写真	187

写真図版目次

カラー図版

カラー図版1　個遺跡空中写真遠景（東から）
調査中の個遺跡空中写真全景
カラー図版2　中央区縄文最下層・下層の遺構面
北区縄文下層の石剣・石刀類と砥石
カラー図版3　北区縄文上層の住居跡
北区縄文上層の土器棺・土壙墓群
カラー図版4　北区縄文中層の貯蔵穴群（南から）
SK304～SK307、SK303断面、SK308断面、SK308底面のドングリ痕跡
カラー図版5　南区縄文下層の貯蔵穴群（東から）
SK459～SK462、SK453断面、SK452断面、貯蔵穴内出土イチイガシ
カラー図版6　縄文後期の土器
カラー図版7　縄文後期の土器
カラー図版8　土偶
縄文の祭祀イメージ

白黒図版

図版1	遺跡遠景	北淡路東海岸から明石海峡を望む空中写真
図版2	遺跡遠景	1. 遺跡周辺空中写真5千分の1（1985年本四公団撮影）
		2. 遺跡周辺空中写真1万分の1（昭和20年代空中写真）
図版3	遺跡全景	遺跡空中写真2千分の1
図版4	遺跡全景	1. 遺跡全景空中写真南から
		2. 遺跡全景空中写真俯瞰
図版5	遺跡全景	1. 遺跡全景空中写真南から
		2. 遺跡全景空中写真東から
図版6	遺跡全景	1. 遺跡全景山田原方向南から
		2. 遺跡全景南東から
		3. 調査地全景北から
図版7	北区縄文最下層	1. 遺構全景南から
		2. 遺構全景北から
図版8	北区縄文最下層	1. 遺構全景東から
		2. SK502　3. SK503　4. SK504　5. SK505　6. SK506　7. SK507
図版9	北区縄文最下層	1. SK512検出　2. 石材検出　3. 全景東から　4. 全景南から　5. 掘方
図版10	北区縄文下層	1. 北区北部遺構全景空中写真（俯瞰）
		2. 北区北部遺構全景北から
図版11	北区縄文下層	1. 北区中部遺構全景東から

		2. 北区中部遺構全景西から
図版12	北区縄文下層	1. 北区北部遺構全景南から
		2. SH404全景南から
		3. SH405全景南から
図版13	北区縄文下層	1. 北区南部遺構全景東から
		2. SH402南から
図版14	北区縄文下層	1. 北区中部遺構西から
		2. SK401　3. 断面
図版15	北区縄文下層	1. SK411（貯蔵穴）検出・掘削　2. 断面半截　3. 東部完掘
図版16	北区縄文下層	1. 石剣・石刀類及び砥石検出状況
		2. K13区土器出土状況
		3. K14区土器出土状況
図版17	北区縄文中層	1. 貯蔵穴群空中写真
		2. 貯蔵穴群南から
図版18	北区縄文中層	1. 貯蔵穴群東から
		2. 貯蔵穴群南から
		3. 貯蔵穴群北から
図版19	北区縄文中層	1. 貯蔵穴群北から
		2. SK301完掘　3. 断面
		4. SK302断面
		5. SK303完掘　6. 半截　7. 断面
図版20	北区縄文中層	1. SK304～307西から
		2. SK304完掘　3. 断面
		4. SK305完掘　5. 断面
		6. SK306完掘　7. 断面
		8. SK307完掘　9. 断面
図版21	北区縄文中層	1. SK308断面　2. 半截　3. 半截完掘
		4. SK308底面ドングリ痕跡
		5. SK309・SK310完掘
		6. SK309断面
		7. SK311完掘　8. 断面　9. 底面石材
図版22	北区縄文中層	1. SK312完掘　2. 断面
		3. SK313断面
		4. SK322完掘　5. 断面
		6. SK314完掘　7. 断面
		8. SK316完掘
		9. SK324完掘　10. 断面
図版23	北区縄文中層	1. SK328完掘　2. 断面

		3. SK323完掘
		4. SK327完掘　5. 断面
		6. SK325断面
		7. SK338完掘　8. 断面
		9. SK329完掘　10. 断面
図版24	北区縄文中層	1. SK332完掘
		2. SK334・335完掘　3. 断面
		4. SK340完掘　5. 断面
		6. SK333完掘
		7. SK336完掘　8. 断面
		9. SK350完掘　10. 断面
図版25	北区縄文上層	1. 北区北部遺構全景空中写真（俯瞰）
		2. 北区北部遺構全景南から
図版26	北区縄文上層	1. 北区南部遺構全景西から
		2. 北区中部遺構全景東から
		3. 北区中部遺構全景西から
図版27	北区縄文上層	1. 住居跡群(SH201・202)南から
		2. SH201
		3. SK201
図版28	北区縄文上層	1. SX201～209検出西から
		2. SX201～209検出北から
		3. SX201～209完掘北から
図版29	北区縄文上層	1. SX201検出　2. 俯瞰　3. 完掘
		4. SX202検出　5. 上部除去
図版30	北区縄文上層	1. SX202断面　2. 完掘
		3. SX201・SX203検出
		4. SX201掘方完掘、SX203検出
		5. SX203完掘
図版31	北区縄文上層	1. 北区上層SX202・204・205検出
		2. 北区上層SX204完掘
		3. 北区上層SX205検出　4. 完掘
		5. 北区上層SX206完掘
		6. 北区上層SX207完掘
図版32	北区縄文上層	1. SX212完掘　2. 断ち割り
		3. SX211
		4. 石剣・石刀類出土状況
図版33	北区縄文上層	1. SK202サヌカイト集積土坑上部
		2. SK202サヌカイト集積土坑下部

図版34	北区弥生～古代	1. 北区西辺遺構全景北から
		2. SD101壺出土
		3. SX101上部
		4. SD101
		5. SR101
図版35	北区中世	1. 中世遺構全景空中写真（俯瞰）
		2. 中世遺構西から
図版36	北区中世	1. SD101南から
		2. SE101完掘状況北から
		3. SE101液状化による側方流動状況北から
		4. SK002
		5. SK001
図版37	北区中世	1. 掘立柱建物跡群南から
		2. SB001
		3. SB002
図版38	北区中世	1. 北区西辺遺構全景北から　2. 全景南から
		3. SD002・SD105南から
		4. SD002・SD105-A・B東から
図版39	北区中世	1. SD001埋土を切る噴砂
		2. SD001埋土を切る噴砂
		3. 寒川氏調査風景
		4. 噴砂断面
		5. J-7・8付近土坑状の噴砂　6. 断面
図版40	北区中世	1. 中世面上位の水田東から
		2. 中世面上位の水田西から
図版41	中央区縄文最下層・下層	1. 遺構全景空中写真東から
		2. 遺構全景西から
図版42	中央区縄文最下層・下層	1. SH501
		2. SH501・SH406東から
図版43	中央区縄文下層・上層	1. 縄文下層SK413断面　2. 完掘
		3. 縄文下層SK414断面　4. 完掘
		5. 縄文上層遺構全景東から
図版44	南区縄文下層	1. 遺跡全景空中写真俯瞰
		2. 遺構全景南から
図版45	南区縄文下層	1. 上部の遺構東から
		2. SK509
		3. M19区土器溜まり
図版46	南区縄文下層	1. 崖下低湿地の木道及び貯蔵穴群南から

		2. 崖下低湿地の木道及び貯蔵穴群西から
図版47	南区縄文下層	1. 傾斜地包含層土器出土状況波状口縁有文深鉢
		2. 傾斜地包含層土器出土状況波状口縁有文深鉢
		3. 傾斜地包含層土器出土状況波状口縁有文深鉢
		4. 傾斜地包含層土器出土状況無文浅鉢
		5. 傾斜地包含層土器出土状況波状口縁有文浅鉢
図版48	南区縄文下層	1. 傾斜地（西壁）土層断面
		2. サヌカイト集積出土状況
		3. 鹿角出土状況
		4. 板状木製品出土状況
		5. 木製鉢出土状況
図版49	南区縄文下層	1. 木道と周辺貯蔵穴群検出状況
		2. 木道と周辺貯蔵穴群完掘
図版50	南区縄文下層	1. 木道設置状況南から　2. 西から　3. 南東から
図版51	南区縄文下層	1. 木道下面の状況
		2. 木道上面の状況
		3. 木道上面南から
		4. 木道上面北端の穿孔状況
		5. 木道下面付着のトチ
		6. 木道下面付着のイチイガシ
図版52	南区縄文下層	1. SK452断面　2. 完掘
		3. SK453完掘　4. 断面
図版53	南区縄文下層	1. SK451完掘
		2. SK454完掘　3. 断面
		4. SK455完掘　5. 断面
		6. SK456完掘
		7. SK458完掘　8. 断面
図版54	南区縄文下層	1. SK459完掘　2. 断面
		3. SK460完掘　4. 断面
		5. SK461完掘　6. 断面
		7. SK462完掘　8. 断面
図版55	南区縄文下層	1. SK457完掘
		2. SK463断面
		3. SK464完掘　4. 断面
		5. 貯蔵穴群完掘東から　6. 西から
図版56	南区縄文上層・弥生～奈良	1. 縄文上層遺構全景北東部
		2. SD107全景南西から
		3. SD107の杭列

図版57	南区中世	1. 中世遺構全景北から
		2. SK003
図版58	縄文土器	縄文最下層　縄文早期後葉から前期初頭の土器
		縄文最下層　縄文中期　船元式土器
図版59	縄文土器	縄文最下層　縄文前期～中期初頭および中期船元Ⅰ又はⅡ式土器
		縄文最下層　縄文中期　船元Ⅱ式および船元Ⅲ式土器
図版60	縄文土器	縄文最下層　縄文中期　船元Ⅳ式土器
		縄文最下層　縄文中期　船元Ⅳ式～里木Ⅱ式他および各地搬入の土器
図版61	縄文土器	中央区縄文最下層　住居跡（SH501）出土土器（船元Ⅳ式、里木Ⅱ式）
		北区縄文最下層　土坑（SK508、SK511）出土土器（船元Ⅳ式）
図版62	縄文土器	縄文最下層遺構（後期前葉）SK509出土土器
		縄文最下層相当土器（後期前葉）
図版63	縄文土器	南区縄文下層　遺構出土土器
図版64	縄文土器	南区縄文下層　遺構SD451出土土器
図版65	縄文土器	南区縄文下層　出土土器
図版66	縄文土器	南区縄文下層　23層出土土器
図版67	縄文土器	南区縄文下層　14・15・23層出土土器
		南区縄文下層　12・19層出土土器
図版68	縄文土器	南区縄文下層　13・11層出土土器
		南区縄文下層　9層出土土器
図版69	縄文土器	南区縄文下層　9層出土土器
図版70	縄文土器	南区縄文下層　9層出土土器
図版71	縄文土器	南区縄文下層　9層出土土器
図版72	縄文土器	南区縄文下層　9層出土土器
図版73	縄文土器	南区縄文下層　8・10層出土土器（N・O20～22区）
図版74	縄文土器	南区縄文下層　8・10層出土土器（N・O20～22区）
図版75	縄文土器	南区縄文下層　8・10層出土土器（N・O20～22区）
図版76	縄文土器	南区縄文下層　8・10層出土土器（M20区最下部）
図版77	縄文土器	南区縄文下層　8・10層出土土器（M20区最下部）
図版78	縄文土器	南区縄文下層　8・10層出土土器（M20区8・7回目）
図版79	縄文土器	南区縄文下層　8・10層出土土器（M20区６・5回目）
		南区縄文下層　8・10層出土土器（M20区）
図版80	縄文土器	南区縄文下層　8・10層出土土器（M20区4回目）
図版81	縄文土器	南区縄文下層　8・10層出土土器（M20区4回目）
図版82	縄文土器	南区縄文下層　8・10層出土土器（M20区）
図版83	縄文土器	南区縄文下層　8・10層出土土器（M20区3回目）
		南区縄文下層　8・10層出土土器（M20区2・1回目）
図版84	縄文土器	南区縄文下層　8・10層出土土器（M20区2・1回目）

図版85	縄文土器	南区縄文下層	8・10層出土土器（M20区）
図版86	縄文土器	南区縄文下層	8・10層出土土器（M20区）
図版87	縄文土器	南区縄文下層	8・10層出土土器（L20区7回目）
図版88	縄文土器	南区縄文下層	8・10層出土土器（L20区7回目）
		南区縄文下層	8・10層出土土器（L20区）
図版89	縄文土器	南区縄文下層	8・10層出土土器（L20区5回目）
図版90	縄文土器	南区縄文下層	8・10層出土土器（L20区6・5回目）
		南区縄文下層	8・10層出土土器（L20区4回目）
図版91	縄文土器	南区縄文下層	8・10層出土土器（L20区4回目）
図版92	縄文土器	南区縄文下層	8・10層出土土器（L20区4回目）
図版93	縄文土器	南区縄文下層	8・10層出土土器（L20区3回目）
図版94	縄文土器	南区縄文下層	8・10層出土土器（L20区3回目）
図版95	縄文土器	南区縄文下層	8・10層出土土器（L20区2回目）
図版96	縄文土器	南区縄文下層	8・10層出土土器（L20区3～1回目）
		南区縄文下層	8・10層出土土器（L20区2回目）
図版97	縄文土器	南区縄文下層	8・10層出土土器（L21区2回目）
図版98	縄文土器	南区縄文下層	8・10層出土土器（L21区2・1回目）
図版99	縄文土器	南区縄文下層	8・10層出土土器（L21区2・1回目）
		南区縄文下層	8・10層出土土器（L21区2回目）
図版100	縄文土器	南区縄文下層	8・10層出土土器（L21区2・1回目）
図版101	縄文土器	南区縄文下層	8・10層出土土器（L21区1回目）
図版102	縄文土器	南区縄文下層	8・10層出土土器（K21区1回目）
		南区縄文下層	8・10層出土土器（L21区）
図版103	縄文土器	南区縄文下層	8・10層出土土器（L21区）
		南区縄文下層	8・10層出土土器（K・L21区）
		南区縄文下層	8・10層出土土器（L22区　1回目）
		南区縄文下層	8・10層出土土器（K20区）
図版104	縄文土器	南区縄文下層	8・10層出土土器（K20区7～4回目）
図版105	縄文土器	南区縄文下層	8・10層出土土器（K20区3～1回目）
図版106	縄文土器	南区縄文下層	8・10層出土土器（K20区）
図版107	縄文土器	南区縄文下層	8・10層出土土器（K21区2回目）
図版108	縄文土器	南区縄文下層	8・10層出土土器（K21区2回目）
図版109	縄文土器	南区縄文下層	8・10層出土土器（K21区2回目）
図版110	縄文土器	南区縄文下層	8・10層出土土器（K21区）
図版111	縄文土器	南区縄文下層	8・10層出土土器（K21区）
		南区縄文下層	8・10層出土土器（K21区1回目）
図版112	縄文土器	南区縄文下層	8・10層出土土器（K21区）
図版113	縄文土器	南区縄文下層	8・10層出土土器（K21区）

図版114	縄文土器	南区縄文下層　8・10層出土土器（K22区2・1回目）
図版115	縄文土器	南区縄文下層　8・10層出土土器（K22区2・1回目）
図版116	縄文土器	南区縄文下層　8・10層出土土器（K22区2回目）
図版117	縄文土器	南区縄文下層　8・10層出土土器（K・L22区）
図版118	縄文土器	南区縄文下層　8・10層出土土器（その他）
図版119	縄文土器	北・中央区縄文下層遺構　SK410・411出土土器
		北・中央区縄文下層遺構　SK412出土土器
図版120	縄文土器	北・中央区縄文下層遺構　SK413・414出土土器
		北・中央区縄文下層　出土土器
図版121	縄文土器	縄文中層遺構　SK336出土土器
		縄文中層　出土土器
図版122	縄文土器	縄文中層　出土土器
図版123	縄文土器	縄文中層　出土土器
図版124	縄文土器	縄文上層　出土土器
		縄文上層　縄文後期末～晩期の土器
図版125	縄文土器	縄文上層　縄文晩期前葉～中葉の土器　埋甕、埋設土器、その他
図版126	縄文土器	縄文上層　縄文晩期前葉～中葉の土器　SH201内SK201出土土器
		縄文上層　縄文晩期前葉～中葉の土器　深鉢、浅鉢
図版127	縄文土器	縄文上層　縄文晩期前葉～中葉の土器　深鉢、浅鉢
		縄文上層　縄文晩期前葉～中葉の土器　浅鉢
図版128	縄文土器・弥生土器	南区縄文上層　縄文晩期後半凸帯文土器
		弥生時代前期～中期の土器
図版129	縄文土器・弥生土器	SD107出土土器　縄文晩期後半～弥生前期
		SD107出土土器　弥生前期～中期
図版130	奈良時代・中世の土器	北区ＳＤ105出土　製塩土器
		北区ＳＲ101出土　土師器坏、須恵器壺・坏、ＳＤ001出土　土錘・南区中世面出土　土錘
図版131	弥生土器・古墳時代の土器	弥生前期壺、弥生後期壺・甕・鉢・甑、古墳前期土師器甕
図版132	古墳・奈良時代の土器	古墳前期土師器甕
		奈良土師器無頸壺・坏・製塩土器、須恵器坏・高杯・横瓶
図版133	中世の土器	土師器小皿・托・坏
図版134	中世の土器	須恵器小皿・椀・鉢・墨書土器、瓦器椀、白磁碗
図版135	縄文土器文様・細部	元住吉山式土器施文要素カタログ（縄文）
図版136	縄文土器文様・細部	元住吉山式土器施文要素カタログ（縄文，擬縄文）
図版137	縄文土器文様・細部	元住吉山式土器施文要素カタログ（擬縄文，描線）
図版138	縄文土器文様・細部	元住吉山式土器器面調整カタログ
図版139	縄文土器文様・細部	元住吉山式土器製作手法等カタログ
図版140	縄文土器文様・細部	元住吉山式土器底部カタログ

図版141	縄文土器文様・細部	元住吉山式土器文様カタログ
図版142	縄文土器文様・細部	元住吉山式土器波頂部突起カタログ
図版143	縄文土器文様・細部	元住吉山式土器瘤状突起カタログ
図版144	縄文土器文様・細部	元住吉山式土器文様カタログ
図版145	縄文土器文様・細部	異系統土器ほか
図版146	土製品	土偶各面・細部-1
図版147	土製品	土偶各面・細部-2
図版148	土製品・骨角器・石製品	土偶、耳栓、焼成粘土塊、棒状土製品、円形土製品、石製小玉、骨製刺突具
図版149	石器	縄文上層（6期）・中期（5期）石鏃
図版150	石器	縄文下層（5期）　M20区石鏃
図版151	石器	縄文下層（5期・4期）石鏃
図版152	石器	縄文各層　石錐・尖頭器・石匙（E類）
図版153	石器	縄文各層　石匙（W類）・削器
図版154	石器	縄文各層　削器
図版155	石器	縄文各層　加工痕のある剥片・使用痕のある剥片
図版156	石器	縄文上層・中層・下層　M20区楔形石器
図版157	石器	縄文下層　M20区楔形石器（1）
図版158	石器	縄文下層　M20区楔形石器（2）
図版159	石器	縄文各層　石核（1）
図版160	石器	縄文各層　石核（2）
図版161	石器	縄文各層　石核（3）・分割原石（1）
図版162	石器	縄文各層　分割原石（2）
図版163	石器	縄文下層　分割原石（3）
図版164	石器	縄文各層　石剣・石刀類
図版165	石器	縄文各層　石斧・ハンマー・石鎚
図版166	石器	縄文各層　石錘・凹石・軽石
図版167	石器	縄文各層　石皿（1）
図版168	石器	縄文各層　石皿（2）・砥石
図版169	木製品	南区縄文下層　木道
図版170	木製品	南区縄文下層　木道縦木、木道横木、鉢、板状木製品
図版171	木製品	弥生～古代　杭、棒状木製品、大足状木製品、盤状木製品
図版172	木製品	中世　SE01横桟
		中世　SE01縦板
図版173	木製品	中世　SE01縦板
図版174	木製品	中世　SE01曲物外面
		中世　SE01曲物内面
図版175	土製品・金属器	古代　土馬
		中世　鉄釘、鉄鏃、刀子、銅鈴、銅銭

第１章　調査に至る経緯と経過

第１節　調査に至る経緯

（吉田・深井）

１．本州四国連絡道路の概要

本州と四国を結ぶ本州四国連絡道路は３ルートがあり、児島・坂出ルートは1988年に開通し、神戸・鳴門ルート（1998年4月開通予定）、尾道・今治ルート（1999年度開通予定）の２ルートの工事が着々と進行している。

これらのルートのうち、神戸・鳴門ルートは本州四国連絡道路の最も東に位置している連絡道路であり、神戸市垂水区から明石海峡を明石海峡大橋で渡り、淡路島を縦断して鳴門海峡を大鳴門橋で渡り、徳島県鳴門市に至る総延長約81kmの高速自動車国道である。このルートの内、津名一宮インターチェンジから鳴門インターチェンジまでの大鳴門橋関連区間約45kmが1987年10月に供用されており、残りの垂水ジャンクションから津名一宮インターチェンジまでの明石海峡大橋関連区間約36kmを1998年4月供用に向け工事がほぼ完了している。

淡路島内には７箇所のインターチェンジを設けて、本州・淡路・四国の交通を確保し、各地域との経済圏、生活圏、文化圏の形成をよりいっそう密なものとなるよう計画している。

２．兵庫県の取り組み、県教委と公団の協議

本州四国連絡道路（神戸・鳴門ルート）通称淡路縦貫道路の建設にあたっては埋蔵文化財の存在とその協議の必要性が生じたため、本州四国連絡橋公団（以下、本四公団）の埋蔵文化財の照会を受けた兵庫県教育委員会（以下、県教委）は1972年（昭和47）淡路考古学研究会に分布調査を依頼し、道路計画路線幅約200mにわたって実施した。県教委はその結果を踏まえ本四公団と保存協議を行ない、やむおえず工事計画から除外できない箇所については事前調査することとなった。

1973年のオイルショックの影響で、淡路縦貫道の全面的な工事は実施不可能となり、津名一宮インターチェンジから以南の事業を行なうことになった。確認調査は志知川沖田南遺跡など1978年（昭和53年）から三原平野を中心に実施した。また志知川沖田南遺跡や雨流遺跡の全面調査は1982年（昭和57年）までに終了した。なお1982年（昭和57年）からは三原町の谷町筋、鮎田、新川西、寺中の各遺跡の確認・全面調査を1984年（昭和59年）までに実施し、淡路縦貫道の大鳴門橋関連供用区間の埋蔵文化財調査は終了した。

第１図　淡路縦貫道位置図

淡路縦貫道北部の明石海峡大橋関連区間の埋蔵文化財は分

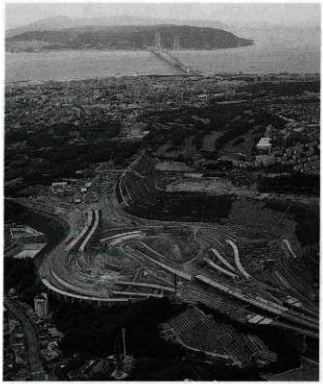


写真1　垂水インターチェンジから淡路島方面を望む

布調査実施時から相当期間を経ているため、その後の事業地付近に新たな遺跡の発見等があり、改めて分布調査を実施することになった。

分布調査は1987年（昭和62年）津名町津名一宮インターチェンジ以北東浦町までの21キロを実施し、また翌年の1988年（昭和63年）には東浦町から以北淡路町松帆の明石海峡大橋建設予定地までの区間約9キロの分布調査を実施した。その結果99箇所の散布地を発見した。

分布調査で発見された確認調査必要個所は合計99箇所に及び、しかもこれまで想像できなかった山間部に多数その確認必要個所が存在するため、本四公団との積み重なる協議の結果、1989年度（平成元年）から1994年度（平成6年）にかけて確認調査を実施した。

確認調査を実施した結果、全面調査が必要となった箇所は18箇所にのぼり、用地買収状況に応じて随時全面調査を実施した。

佃遺跡はほ場整備事業に伴う分布調査において1972年に発見されていた。その後、東浦町教育委員会が1981年にほ場整備事業に伴う確認調査を実施し、古墳時代を中心とする遺構・遺物が発掘された。その後は一部でほ場整備が実施されたが、今回報告箇所付近はほ場整備事業は実施されないままになっていた。

明石海峡大橋区間には前述したとおり99箇所にものぼる確認調査必要箇所が存在したため、条件整備が整った箇所から確認調査を実施することになり、この佃遺跡周辺（東-11地点）の発掘調査は1989年度（平成2年）に約16,000平米を対象に実施された。その結果、縄文後期～中世の遺跡が存在することが判明し、中でも縄文時代後期の遺物包含層が最深2mおよび堆積していることが分かった。これら全面調査を必要とする範囲はランプと町道68号の交差付近から南北120mにおよぶことが判明した。同時に当事業内の近隣の確認調査においても藤ノ木遺跡や禿山遺跡、尼ヶ岡遺跡などが全面調査必要箇所として確認された。

この確認結果を踏まえ、本四公団との協議を行ない、1991年（平成3年）9月に全面発掘調査を実施することとなった。全面調査では3,600平米を対象として実施し、確認調査結果どうりの大量の縄文時代遺物と予想を上回る数の住居や貯蔵穴等の遺構が発掘された。県下に類をみない豊富な遺物と多数存在する遺構が検出され、当年度で完掘できない北区北側を中心とする縄文時代の遺構面の調査は1992年度（平成4年度）に継続調査することになった。

1992年5月から北区の縄文時代遺構面の調査を始めたが、昨年度には遺構が検出されていなかった面での貯蔵穴の大量検出という誤算もあったが、これまた予想を上回る成果をもって、1992年（平成4年）10月に佃遺跡の全ての発掘調査を終了した。

161.9
162.0
北区
町道浦88号線
162.1
中央区
南区
湯浦インターチェンジ
162.3
県道野島・浦島
0
100m

第２図
畑遺跡周辺図

第２節　第１次調査（確認調査）

（吉田・藤田）

（遺跡調査番号：890064）

調 査 機 関　兵庫県教育委員会　埋蔵文化財調査事務所

調　査　員　調査第２課　主査　吉田　昇、技術職員　西口　圭介、同　藤田　淳、同　鐵　英記

調査第１課　臨時職員　多賀　茂治

事 務 員 等　正司　貴子、神田　恵子、向田　礼子

請 負 業 者　橋詰建設株式会社

調 査 期 間　1989年（平成元年）8月28日～12月20日

１．第１次調査の概要

個遺跡の確認調査は平成元年８月～12月の本州四国連絡道路建設に伴う埋蔵文化財確認調査の一環として行った（東11地点）。この時の調査では42箇所について坪掘を中心とした試掘を行ったが、本州四国連絡橋公団の要請によりすべて用地買収前に調査を実施したため、調査上の様々な制約を受けざるをえなかった。

特に坪の位置や調査時期の決定については事前に地権者の了解を得た上で、耕作時期との調整が必要であるため、同一地点であっても数回に分けて調査を行うことが通常であった。東11地点では幸いに11月６日～16日の間（実質８日）にまとめて調査を行えたが、その間にも北淡町と東浦町の10箇所の地点を並行して調査した。

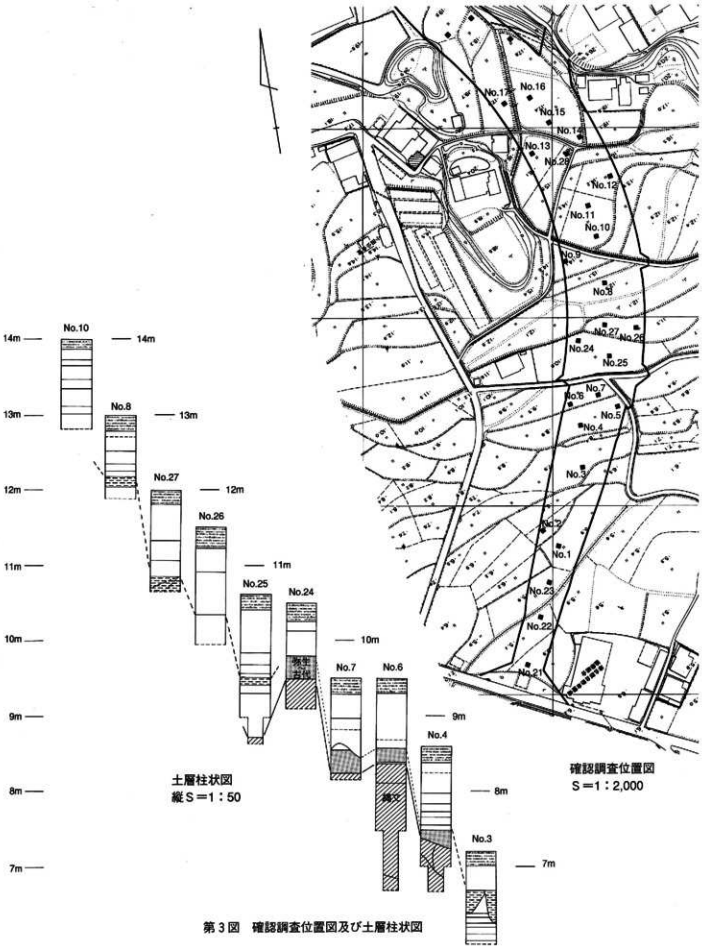
さらに、調査終了後、すべての坪・トレンチは直ちに埋め戻しを行うことを求められたため、隣接する坪相互の土層堆積状況をその場で比較できないこともしばしばあった。埋め戻しの際には、後日の耕作に支障が生じないよう充分な転圧を行い、土の不足はマサ土で補った。特に土質条件の悪い坪については固化剤としてセメント、石灰を混入して、地盤の沈下などが起こらないように配慮した。セメントの混入などが後の全面調査に少なからず支障をきたすであろうことは十分予想されたが、やむを得なかった。

このような様々な制約のため、遺跡の範囲、性格などについては、必ずしも十分な情報を得ることができなかったが、この確認調査において縄文時代後期～晩期の良好な遺跡の存在を確認できたことは幸いであった。

東11地点で設定した坪の数は28個で調査面積は112㎡となる。このうち中央部に位置するNo.３～９およびNo.24～27の11箇所の坪で遺構面あるいは遺物包含層が確認できたが、これ以外の坪では遺構・遺物包含層とも確認できなかった。

写真２　坪No.６作業風景

No.４～７およびNo.24・25では縄文時代後期～晩期を中心とする大量の土器・石器を含む遺物包含層を確認した。包含層の層厚が厚かったためすべての坪で無遺物層まで到達で



第3図　確認調査位置図及び土層柱状図

写真３　坪No.27木製品出土状況

きたわけではないが、No. 6 ・ 7 の２箇所が最も多量の遺物を含み、層厚も２ｍ近くに達した。No. 6 での掘削深度は３ｍ弱におよび、人力掘削による坪掘調査ではこのあたりが限界であった。こうしたことから調査範囲内では遺構は確認できず、周辺の地形から遺物包含層のみの存在を想定したが、全面調査によって遺構の存在が明らかとなった。不十分な情報から思いこみによる判断を下すことの危うさを思い知らされた次第である。

No.27では灰色～青灰色砂層が厚く堆積しており奈良時代の土器と木製品１点（写真３）が出土している。この層は旧流路内堆積物と考えられたが、大量の湧水で調査区壁が崩落するため流路底の確認はできなかった。

No. 3 では床土直下（現地表下50cm）で土坑が検出された。土坑は灰色の砂質土に掘り込まれており、遺構のベースとしてはやや不安定なものである。遺構から遺物は出土していないが、耕作土、床土には中世の遺物が見られる。

No. 9 では中世（室町時代）の遺物包含層と現地表下約１ｍの黄色系シルト層を切り込んだ柱穴が確認された。No. 3 の遺構とは離れており性格・時期を異にする可能性がある。

以上の結果および周辺の現地形観察から、佃遺跡はNo. 9 ～No. 3 までの間が遺跡の範囲と想定した。豊富な遺物量と良好な堆積状況を示す遺物包含層の存在から、畿内でも有数の縄文時代遺跡となることが予想されるとともに、古代～中世の遺構も存在する複合遺跡であることが確認できた。

第３節　第２次調査（全面調査）

（山本）

（遺跡調査番号：910064）

調査機関　兵庫県教育委員会　埋蔵文化財調査事務所

調 査 員　調査第１課　主査　深井明比古、技術職員　山本　誠、同　深江　英憲、同　所崎明雄

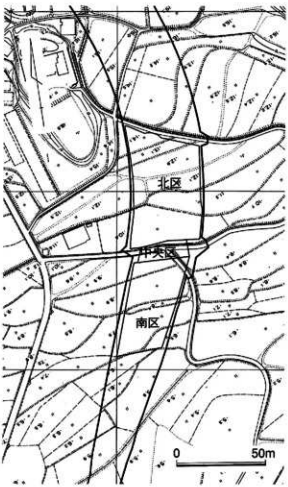
事務員等　正司　貴子、神田　恵子

請負業者　橋詰建設株式会社

調査期間　1991年（平成3年）8月26日～1992年（平成4年）3月19日

１．第２次調査の概要

全面調査である第２次・第３次調査では、調査対象範囲内を北区・中央区・南区と３つの地区に大別した。また、調査区全体を縦横5mの方角目に区分し、西から東にアルファベットを付け、北から南に向かって数字をつけた。これによって区切られた5m×5mのマスの地区は「大区」とし、方眼交点の北西を優位にその点名をその「大区」の地区名とした。また5m×5mの「大区」内を1m×1mの25の「小区」にわけ、北西から南に1・2・3・・25と名付けた。



第４図　全面調査地区割り図

第２次調査は1991（平成３）年９月18日に開始した。重機による掘削で、北区北側で中世遺構面（第６面）を検出した。また、９月25日以降南区南側から重機掘削を開始し、中世遺構面を検出した。

なお、北区南半分から南区北半分にかけて、縄文時代の遺構面が現地表面下2m以上の深度にあることが、第１次調査で予想されたため、土留施設（H型鋼と矢板）を設置する必要を生じた。よって遺跡調査に平行して同日からH型鋼の打ち込みを開始し10月11日に土留施設の設置が完了した。

（北区の調査）

北区では10月16～18日には南側で水田遺構を検出し、北半部（北１区）では、10月21日からの中世面（第６面）の精査によって、噴砂跡を検出した。通産省地質調査所の寒川旭氏による現地指導（10月23・24日）の結果、この噴砂跡は、1596年の伏見地震によるものと推定された。11月15日には、北区北半部の遺構写真撮影を行ない、12月４日をもって、中世面の調査を終了した。

北区南半部（北2・3区）における縄文時代の調査は、11月20日に開始した。まず13ラインに沿って東西方向に幅1mのトレンチを設定し、また南北方向にはMラインに沿って、M11区～M15区に幅1mのトレンチを設定し、人力により地山面までの掘削を実施した。その結果、二つの遺構面（第２面と第４面）

を確認する事ができた。12月３日以降、縄文上層文化層（第４面）の検出を開始した。北区南端の幅約10mは、諸関係各機関との協議の結果、仮設道設置のために早急な調査の終了が必要となったため、この部分（北３区）を先行して調査した。12月10日には、縄文上層文化層（第４面）の遺構検出・掘削を終了し、写真撮影および遺構実測を行なった。12月20日までに縄文下層文化層（第２面）の遺構検出・掘削を終えた。なお、この文化層調査中、Ｊ15区付近において、土器棺・土壙墓群を検出したが、精査の結果、これらの遺構は上層文化層（第４面）に属するものであることが判明した。

1992年１月より、北２区の調査を開始した。１月16日までに縄文上層の調査を終え、２月11日までに遺構実測などを終え、写真撮影を行なった。

（中央区の調査）

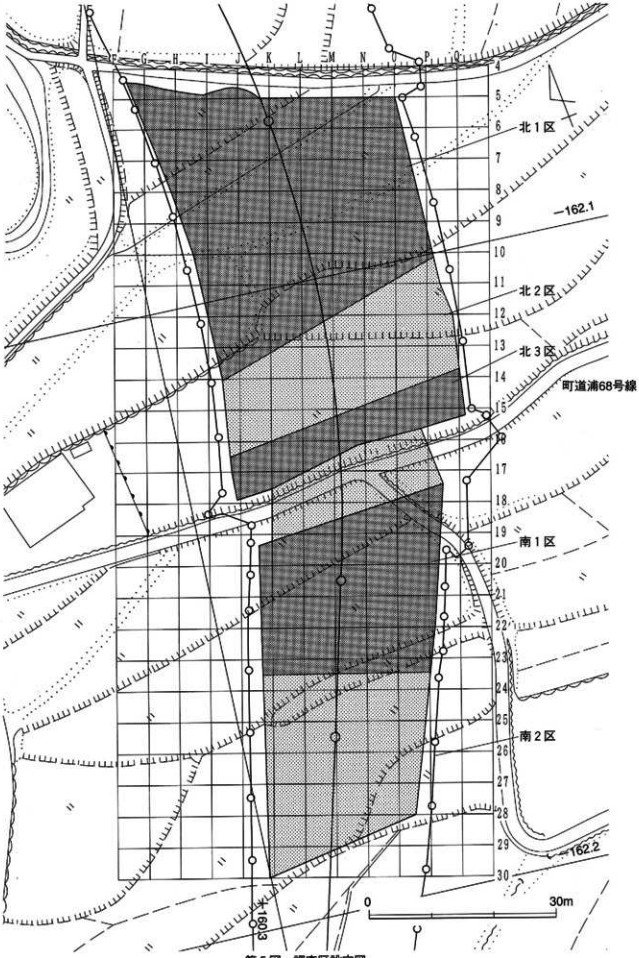
北１区調査終了後に、中央区上に存在した「町道」を振り替え、１月18日よりこの地区の調査を開始した。１月27日、縄文上層文化層の掘削を行ない、本格的な調査を開始した。１月31日に縄文上層文化層（第４面）の遺構写真・実測を終え、引き続き縄文下層文化層（第２面）の調査を行なった。２月10日には、竪穴住居跡（SI501）を検出した。現地調査時には、縄文下層文化層に所属するものがあると考えていたが、後の出土遺物の検討から、縄文最下層文化層（第１面）の遺構であることが判った。２月11日に縄文下層文化層（一部縄文最下層文化層）の遺構の実測・写真撮影を終えた。

（南区の調査）

この地区は10月16日に調査を開始し、南２区で、中世（第６面）の遺構・遺物を検出した。遺構の写真撮影・実測を行ない、11月15日までにこの面の調査を終えた。南１区では、10月26日に縄文上層文化層（第４面）の遺物包含層（黒色シルト層）の上面を検出した。第１次調査では、この遺物包含層の厚さがどの程度なのかが不明であったため、この包含層上面にて、トレンチを設定し、遺物包含層の分布範囲および厚さを先行して調査することとした。トレンチは幅1mで、南区の北壁・西壁・東壁に沿って設定すると共に、Ｎライン、21ラインに沿ってもトレンチを設定した。トレンチ調査の結果、南区では南１区を中心に縄文下層文化層・中層文化層・上層文化層の三つの包含層が存在していることが判った。その後、縄文上層包含層の掘り下げを行ない、11月22日に縄文上層文化層（第４面）の遺構検出を完了し、写真撮影・実測を行なった。その後、縄文中層文化層の包含層である砂層を掘り下げた後、12月11日より本格的に、縄文下層文化層（第１面）の遺物包含層である「８層：黒色シルト質極細砂」「９層：暗褐色細砂」の掘り下げを開始した。これらの層には土器・石器の他、シカ・イノシシなどの獣骨片も数多く残存したため、Ｌ20・M20区周辺では包含層を10cmごとの厚さで（１回目、２回目・・・というように）掘り下げを行なった。２月11日には、段丘崖下のN21区で、丸木舟転用の「木道」を検出した。２月17日より、23層（暗灰色細粒シルト）を除去し「黒色地山」層上面の精査を行なった結果、14基の貯蔵穴を検出した。３月19日までに写真撮影・遺構実測を終了し、北１区以外の地区の調査を完了した。

写真４　南区縄文土器発掘風景

なお、1992年２月15日（土）に現地説明会を開催し、約300名の参加を得た。



第５図　調査区設定図

第4節　第3次調査（全面調査）

（山本）

（遺跡調査番号：920280）

調査機関　兵庫県教育委員会　埋蔵文化財調査事務所

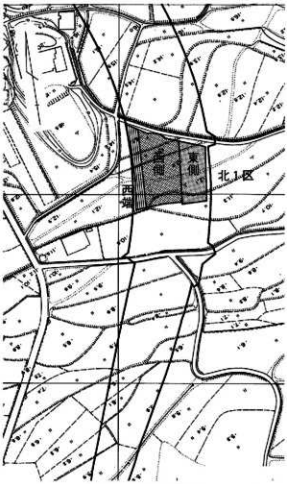
調　査　員　調査第2班　主査　深井明比古、技術職員　山本　誠

調査補助員　木下満代、小東憲朗

事務員等　正司貴子、神田恵子、嶋田富美子

請負業者　橋詰建設株式会社

調査期間　1992年（平成4年）4月30日～11月5日



第6図　北区地区割り図

第3次調査は調査未完了の北1区を中心に、1992（平成4）年4月30日から調査を再開した。まず、第2次調査時に作業用通路としていた北区の西側の幅約5m部分については中世面（第6面）の調査から実施し、5月29日には遺構の写真撮影・実測を終了した。引き続き、弥生時代～古墳時代（第5面）の調査を行ない、6月10日に写真撮影・実測を終了した。

上記の調査に併行して、縄文下層文化層（第2面）から縄文上層文化層（第4面）の状況を把握するため、9ラインおよびKラインに幅1mのトレンチを設定し、掘り下げた。

6月11日から縄文上層文化層の遺物包含層掘削をはじめ6月25日に遺構の写真撮影・実測を終了した。

第2次調査終了時点では、縄文中層文化層（第3面）の存在は確認できなかったが、6月26日に縄文下層文化層の遺物包含層上面を検出中、この面（第3面）で貯蔵穴を検出し始め、最終的に39基からなる貯蔵穴群を検出した。7月31日までに貯蔵穴の掘削・写真撮影・実測を終了した。7月7日からは縄文中層文化層の遺構（貯蔵穴）が検出できなかった9ライン以南について、縄文下層文化層（第2面）の調査を開始した。8月4日以降、9ライン以北についてもこの面の調査を開始し、8月11日に写真撮影及び実測を終了した。8月12日に第2面以下を重機による掘削調査を行なった結果、縄文下層文化層（第1面）の存在を確認した。遺物の出土はほとんどないが、土壙を数基検出した。9月17日までに縄文最下層文化層（第1面）の写真撮影・実測を終えた。

写真5　小学生への説明風景

また、今回の調査作業用として、北区東端に幅約

10mの仮設道路を設置していたが、この部分の調査を９月18日から開始した。この部分は主に第５面に属する弥生時代～奈良時代の流路が大半を占めていた。11月５日までにこの部分の写真・実測を終え、現地での調査をすべて終了した。

1992年８月１日（土）に現地説明会を開催し、約160名の参加を得た。

第5節　整理作業

（山本・深江）

個遺跡の整理作業の内、水洗いについては現場事務所において発掘調査と並行して行ない、器壁の脆いもの（特に縄文土器）については、バインダー処理も随時行なった。また、その後の作業については、兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所及び魚住分館で行なった。

1．平成5年度の整理作業

本年度行なった作業は、土器のネーミングである。作業は魚住分館で行なった。

整理担当職員	整理普及班	主　査	加古千恵子
整理担当嘱託職員	多賀　直子・西原美知代・光澤　鈴子・伊藤ミネ子・川上　啓子		
	衣笠　雅美・長谷川洋子・江口　初美・家光　和子		

2．平成6年度の整理作業

本年度行なった作業は、接合・補強である。作業は引き続き魚住分館で行なった。

整理担当職員	整理普及班	主　任	甲斐　昭光
整理担当嘱託職員	多賀　直子・西原美知代・光澤　鈴子・伊藤ミネ子・川上　啓子		
	衣笠　雅美・長谷川洋子・江口　初美・家光　和子		

3．平成7年度の整理作業

本年度行なった作業は、接合・補強及び実測・拓本等、分析鑑定である。作業は埋蔵文化財調査事務所で行なった。

整理担当職員	整理普及班	主　任	甲斐　昭光
	企画調整班	主　査	深井明比古
	復興調査班	技術職員	山本　誠
	調査第1班	技術職員	深江　英憲
整理担当嘱託職員	山口　卓也・八木　和子・古谷　章子・岡田依理子・杉本　淳子		
	前山三枝子・井内　ゆり・西海奈津子・岡田　憲一・田中　葉		
	久留宮由佳・森田　泉・西馬　佐紀		

4．平成8年度の整理作業

本年度行なった作業は、土器・木器・石器の実測・拓本、復元後の写真撮影・写真整理、保存処理等である。作業は埋蔵文化財調査事務所で行なった。

整理担当職員	整理普及班	主　査	加古千恵子
	整理普及班	主　任	藤田　淳
	整理普及班	主　任	甲斐　昭光
	企画調整班	主　査	深井明比古
	調査第1班	技術職員	山本　誠
	復興調査班	技術職員	深江　英憲

整理担当嘱託職員　松本　睦・古谷　章子・八木　和子・尾崎比佐子・杉本　淳子
前山三枝子・木村　淑子・茨木恵美子・前田千栄子・西野　淳子
飯田　章子・吉田　優子・井内　ゆり・西海奈津子・佐伯　純子
久留宮由佳・山口　幸恵・真子ふさ恵・岡田　憲一・森田　泉
坂東　明子・中村　千春・酒井裕佳子

5．平成9年度の整理作業

本年度行なった作業は、遺構図の補正及びトレース・レイアウト・印刷である。作業は埋蔵文化財調査事務所で行なった。

整理担当職員　整理普及班　技術職員　長濱　誠司
企画調整班　主　査　深井明比古
調査第1班　技術職員　山本　誠
復興調査班　技術職員　深江　英憲

整理担当嘱託職員　古谷　章子・八木　和子・前山三枝子・木村　淑子・茨木恵美子
飯田　章子・蔵　幾子・井内　ゆり・島村　順子・竹内　泰子
岸野奈津子・山口　幸恵・宮野　正子・岡田　憲一

写真6　土器復元風景

写真7　トレース風景

写真9　樹種切片採取風景

写真8　写真撮影風景

第6節　調査後の遺跡・遺物及び資料

（深井）

1．調査後の遺跡について

a．本州四国連絡道路建設に伴う佃遺跡の発掘調査は1992年（平成4年）11月に終了しており、その後は当事業範囲等に変更はなく、発掘調査は行なわれていない。調査範囲は第4図に示すとおりであるが、事業用地と掘削深度の関係からすると、矢板工法を用いて最大限調査範囲を確保したが、事業範囲いっぱいまでの発掘は不可能であったため、周囲に遺構遺物が存在することは否めない。また、佃遺跡は本州四国連絡道路建設に伴う発掘調査以降、個人住宅建設や建物建設に伴い、東浦町教育委員会が調査主体となり、津名郡町村会職員が確認調査を実施し、遺跡範囲がさらに判明しつつある。

b．現状は計画どおり本州四国連絡道路東浦インターチェンジへの片側1車線の土盛りによるランプウェイが通っており、道路周辺は発掘調査当時の面影を残している。（写真10・11）

c．佃遺跡は本報告書にあるように縄文時代の遺構・遺物が多数存在することは容易に想像でき、未だに縄文時代の社会や集落構造の不明な西日本の中にあって、それらの解決の糸口をつかめる特筆すべき遺跡の一つと考えられよう。将来的にはこの発掘調査などが経緯になり、さらに詳細な調査を行ない、遺跡の保存や整備について積極的に進めることも考慮されるべき遺跡である。

2．調査後の遺物について

a．遺物等収蔵品　本遺跡の出土遺物は一括して魚住分館にて収蔵される。出土遺物としては土器、土製品、石器、石製品、骨、種子がある。これら出土品の他に土層転写（剥取り）が17点、剥取り剤を応用した立体剥取り貯蔵穴が2点一対ある。

b．収蔵形態　これらの出土品の多くは18～36リッター入りプラスチックコンテナ約900箱に、大形完形品は60～200リッター入りプラスチック容器に約50箱に収納している。コンテナには遺跡名、調査番号、地区、遺構、土層が記される他に報告番号、実測番号、写真番号が記されている。

c．収蔵分類　収蔵に際しては膨大な遺物出土量であるため以下のように大別分類している。

・出土品を土器、石器等種別し、特A・A・B・Cの4ランクに分けている。

特Aランクはこの遺跡を代表する遺物で、今後の普及啓蒙活動に利用度の高いもの。

Aランクは実測や写真等の記録があり、今後利用度があるもの。

Bランクは文様や器形の特徴を持つが、未実測であり、今後利用の可能性があるもの。

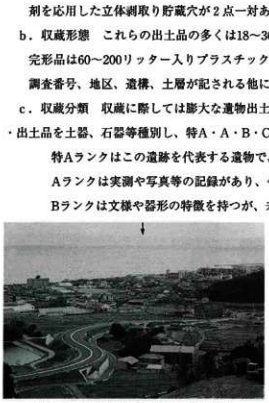


写真10　調査後の遺跡遠景（北から）

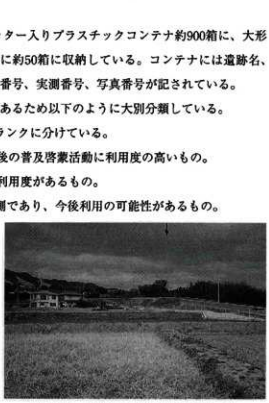


写真11　調査後の遺跡全景（南から）

写真12　魚住分館

写真13　遺物収蔵状況

Cランクは文様や特徴的な部位が不明な破片で、今後利用度の低いもの。

・土器は時代別、時期別に分類のうえ、報告書番号を基礎に収納している。なおコンテナ正面に報告番号等を明示しており、今後、個遺跡デジタルデータブック（仮称）に収録したい。

写真14　データ入力作業

d．収蔵場所

名　称：兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所魚住分館

所在地：兵庫県明石市魚住町清水字立合池ノ下630-1

3．調査後の資料について

a．写　真：発掘調査時および遺物写真は４×５（ポジ・モノクロ）、35mm（ポジ・ネガカラー・モノクロ）で撮影している。

b．図　面：発掘調査時の遺構等の実測図は1/20を基本とし、遺構により縮尺を拡大している。遺物の実測は基本的に原寸にて行ない、大形の木製品については縮小している。

c．報告書：印刷物としては500部を作成し、県教育委員会の配布計画に基づき、都道府県教育委員会埋蔵文化財担当課或いは公的埋蔵文化財調査機関、県内市町埋蔵文化財担当機関等に配布している。

d．記憶媒体：調査時および整理作業時の各データについては長期保存に対応できるような記憶媒体について今後検討したい。

e．資料の利用：これらの資料全般については兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所にて管理している。収蔵場所は種類により異なるので事前に連絡を要する。大いに利用願いたい。

４．遺構・土層断面等の転写（剥取り）資料及び作業方法について

遺跡発掘において重要な遺構は切り取りなどで、展示資料として復元活用できることがある。また現場作業で土層などを手軽に剥取りして、現在までに土層の他、平面や断面など２次元的な資料とて重宝されている。

佃遺跡の調査は重複する縄文時代の文化層が２m以上にもわたっている箇所や、貯蔵穴の断面からドングリが顔を出している部分あり、剥取りの好資料と考えた。これらの状態を後世に残す方法として土層断面転写法が知られていた。

第２・３次調査では噴砂や貯蔵穴の断面、土層断面の剥取りを実施した。特に噴砂や貯蔵穴の平面と断面を同時に剥取る、３次元資料を得た。

土層等の転写方法は奈良国立文化財研究所埋蔵文化財センターの土層転写法研修が実施され、兵庫県からは高瀬一嘉が受講した。その後、県教育委員会のみならず県下市町職員にもその方法を指導し広めた。

佃遺跡でも高瀬一嘉により剥取り作業を実施し、各職員が研修をうけた。その結果、手軽に誰もが２次元的資料を手にする方法を確保した。また後述する剥取剤を応用した「立体剥取り」にて縄文時代の貯蔵穴を検出状態から発掘課程が理解できる資料を作成した。

以下、通常の土層などの２次元の転写方法を記述し、後半では佃遺跡の貯蔵穴を復元するため、剥取りを応用した立体剥取り方法を解説した。また佃遺跡の発掘調査時に剥取った資料等は一覧表に示した。各方面での展示等に利用されたい。

これらの剥取り方法が今後、各発掘現場等で役だつことを望む。

第１表　剥取り等資料一覧

整理普及No.	種別名	時代	遺構名	幅×奥行×高さ(cm)	備考
16の1	立体剥取り-1	縄文後期	SK308南側	155×85×85	16-2と一体、アクリル板付属
16の2	立体剥取り-2	縄文後期	SK308北側	155×85×85	16-1と一体、アクリル板付属
26	剥取り佃①	縄文後期	SK303断面	180×2×90	
27	剥取り佃②	縄文後期	SK303断面	160×2×75	
28	剥取り佃③	縄文後期	SK452平面断面	105×2×125	旧SK12、ドングリ付着
29	剥取り佃④	縄文後期	南区土層断面下部	110×2×90	佃⑧と上下連結
30	剥取り佃⑤	縄文後期	安土桃山	北区I7-21区噴砂平面断面	80×2×105	
31	剥取り佃⑥	縄文後期	北区SK411断面	130×2×65	ドングリ片付着
32	剥取り佃⑦	中世～縄文	北区土層断面	45×2×180	佃⑦と上下連結
33	剥取り佃⑧	縄文後期	南区土層断面上部	45×2×165	佃④と連結
34	剥取り佃⑨	弥生～縄文	南区西壁断面上部	45×2×150	佃⑩と上下連結
35	剥取り佃⑩	弥生～縄文	南区西壁断面下部	45×2×100	佃⑨と上下連結
36	剥取り佃⑪	縄文後～晩期	北区L13-11区土層	50×2×90	
37	剥取り佃⑫	縄文後期	南区SK453断面	95×2×55	旧SK13、ドングリ付着
38	剥取り佃⑬	縄文後期	中央区SK414断面	110×2×45	
39	剥取り佃⑭	縄文後期	南区SK455断面	90×2×40	旧SK15
40	剥取り佃⑮	縄文後期	北区SK308底ドングリ痕跡	65×2×45	
41	剥取り佃⑯	縄文後期	北区SK303底ドングリ痕跡	65×2×45	
42	剥取り佃⑰	縄文後期	北区土層断面	45×2×60	佃⑦と上下連結

資料：土層転写覚書

高瀬一嘉資料に深井明比古が加筆

１．用意する物　（別紙、準備品一覧参照）

ハケ（ビニール手袋、はさみ、カッターナイフ、万能ばさみ、ポリバケツ、コンパネ、洗車ブラシ、筆、混ぜ棒、はかり、紙コップ、寒冷紗またはガーゼ、霧吹き、土嚢、農業用ビニールシート、万力、断面整形用のねじり鎌等、転写用の溶剤、張り付け用の溶剤、仕上げ用の溶剤、アラルダイト系の接着剤、木工用ボンド

２．手順

ａ．塗布

トマックＮＲ－51（エポキシ系）　　乾いた硬い土に。　　強度－大

ＮＳ－10　　（ウレタン樹脂）　　湿った土及び砂層に。強度－小

＊ＮＲ－51の場合　（気温に反応して硬化）

ＮＲ－51：硬化剤＝５：２の割合で混合。　　１㎡あたり約３～４kgを要する。

ＮＲ－51は蓋をあけたら沈澱物を均一にするためよくかきまぜておきます。硬化剤と主剤と十分混ぜあわせたのち土層断面に塗布します。液はかなり下に流れ落ちるので、その量に留意して作業してください。断面塗布したら少し時間をおいてから（20分位）裏打ちの寒冷紗またはガーゼをおしあてる。この時、布と布は強度を持たせるために20㎝ぐらいずつ重ねて貼り付ける。端も多少、多めに余らせておきます。

塗布する時断面の凹んだところにもハケで塗りこんでおきます。そうしないと後で穴になってしまいます。裏打ちが少し乾いたら上からもう一度塗布してください。

乾く時間は夏で30分、冬で３時間が目安ですが、厳冬期には、１夜明けても乾いていないことがあるため、この時期は避けるかジェットヒーターで暖めるなどしてください。冬季はＮＲ－51と硬化剤を温めてから混ぜると効果があります。

＊ＮＳ－10の場合（水と反応して硬化）

ＮＳ－10：水＝７：３　紙コップに入れてハカリで調整。

水と混ぜると、かき混ぜているうちに泡が発生するので、すぼやく断面に塗りつけます。塗布に時間を要するとコップの中で硬化する恐れがあります。

塗布してから約10分弱、泡がややなくなってから裏打ちをしてその後もう一度塗りつけます。水を入れた時発生した泡は、炭酸ガスで、ひとまず泡が一段落してから塗りつけること。砂層の場合は水を入れた霧吹きで湿らせてからＮＳ－10で、粘土の場合も同様。

ＮＳ－10は断面の水の状態によって、混合比が違ってきます。断面に水が多い場合に混ぜる水は減らして。砂層の場合は７：３。断面の上下で土層の質が違う場合ＮＲ－51とＮＳ－10を使い分けるのもよい。

特に夏など気温が高い場合は、水をまぜないで使用しないと発泡が進みすぎます。また特殊な作業で時間をかけて作業をする場合も原液使用すると発泡が遅く仕事がしやすい。いずれにしてもＮＳ－10は

時間的にとても忙しい作業になります。

（塗布と裏打ちの際の注意）

(1) ＮＲ－51の混合は、混ぜ棒で充分に攪拌させないと硬化しないことがあります。

(2) 塗布の時使用したハケは、シンナー、アセトン等の中で洗っておかないと固まって使用出来なくなってしまいます。

(3) 裏打ちの布を塗布面に貼り付ける時はしっかりとおさえつけて、すきまのないようにしてください。そうしないとパネル貼りのときにうきあがったり、補修のときに接着剤がうまくつかなかったりすることがあります。

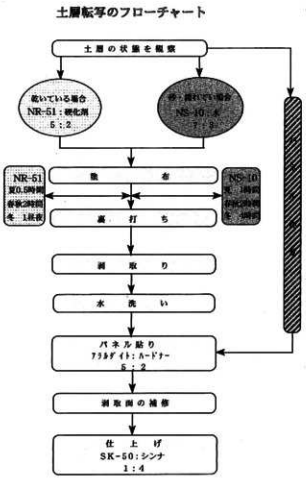
(4) ＮＲ－51での場合はとくに水に気をつけてください。剥ぎ取る範囲より下側に湧水している場合、深く掘って剥ぎ取り面に水がかからないようにしてください。

(5) 剥ぎ取り面を整形するとき断面の分層の線は消してください。そうしないと剥ぎ取った面に線が浮き上がってしまいます。

(6) 断面からは突出した石、土器がなるべくないようにしてください。何故ならパネルに貼る時は、その断面が裏側になってパネルと接する面になるため、突起物が邪魔になってパネルから浮き上がってしまうからです。

b．剥ぎ取り

塗布面が硬化したら剥ぎ取りを行う。上から剥ぎ取っていきますが土層自体が固い場合逆に塗布面の



およそ4㎡の剥取およびパネル貼りに必要なもの

ハケ（毛幅６～７cm，安物でＯＫ）	20本
ゴム手袋（家庭用）	３足
カッターナイフ	２本
はさみ	１丁
万能ばさみ（金切ばさみでもＯＫ）	１個
ポリバケツ（10リッター程度）	３個
ガーゼ（幅30～40cm長さ５ｍ）	10㍍
はかり５kgか10kg（１kgの料理ばかりでもOK）	１桿
霧吹き（ノズルが金属で握る方式のもの）	３個
コンパネ（９mm厚，90×180 cm）	３枚
混ぜ棒（竹ぐらの大きいもので先は丸）	５本
木工用ボンド（200ℓ程度）	１個
筆（硬さ普通で中型品）	２本
洗車ブラシ	１本
土嚢（土を入れたもの）	30袋
農業用ビニールシート（２×10m透明）	１枚

三恒商事で購入可能なもの

ＮＳ－10（剥取の対象により使い分け）	５缶
ＮＲ－51（剥取の対象により使い分け）	５セット
アラルダイト1252	５缶
ハードナー837	２缶
紙コップ（１ℓか500㎖のもの）	10個
ディスポカップ（１ℓ程度のもの）	10個
マイクロバルーン	２kg
ウレタンフォーム溶剤	１セット
サンコールＳＫ－50	１缶
サンコールシンナー	１缶
パラロイドＢ72＋キシレン＋トルエンの混合液（具等の脆弱品の強化が必要な場合）	

ほうが断面に残される恐れがあります。充分硬化してから剥ぎ取って下さい。塗布面が大きい場合１人では難しいので２～３人必要です。２人で引っ張って１人が上からスコップ等で割れ目をいれるとよいでしょう。

(剥ぎ取りの際の注意)

(1) 塗布面が硬化したかどうかの判断は上の方を少しめくって調べてみてください。

(2) 引っ張ると多い時で３～５cm土が付着してくることがあります。この場合はスコップ等で外してください。

(3) 土層がカチカチに乾燥して固い場合は剥がす際間に水を流し込んでみます。水に弱いＮＲ－51でも硬化後は濡れても大丈夫です。

(4) 塗布面にレベルラインをマジック等で書いてあるかどうか確認しましょう。パネルに貼り付ける際には塗布面が裏側になります。

(5) パネル貼りが済んだものについては遺跡名や剥取タイトル等記入しておくこと。

(6) 接着面の石や土器などの遺物は後で接着しますので大切に保管すること。

ｃ、水洗い

剥ぎ取ったら水洗いをします。水道の水とほうき、ブラシ等で勢いよく洗い流します。かなり念入りに洗ってください。硬化しているかぎり剥ぎ取った面が洗い流れてしまうことはありません。念入りに洗っておかないと乾いてから土がボロボロ落ちてきて後始末に困ることになります。ハイプレッシャー等で洗うのもひとつの方法。

ｄ、パネル作り

パネルの厚さが３～５mmのコンパネ等の場合、裏は３cm角位の木材でパネルが歪まないように枠をつくります。大きさは上下は実物より長く、左右はやや短く作ってください。コンパネの厚さが9mmか12mmの場合は特別な場合を除き必要ありません。

ｅ、パネル貼り

水洗い後、乾いたらパネルに貼りつけます。接着剤は、アラルダイト1252とハ－ドナ－837とマイクロバルーンです。

アラルダイト1252：ハ－ドナ－837＝５：２の割合で混合する。

パネルの上に一旦剥ぎ取りを置いて、上部を20～30cm空けます。下部は数cm余らせてください。パネルの上に置いたら剥ぎ取りの上の端を鉛筆で線を入れておきます。この後剥ぎ取りを外して、パネルに混合液を塗ります。１㎡につき約300ｇ位必要です。混合液を均等に伸ばすのはハケよりもペニヤ板等の板きれのほうが便利です。

これの上にマイクロバルーンを混ぜたものを塗ります。マイクロバルーンの混入率は目分量ですが、かきまぜながらマイクロバルーンを徐々に混ぜてゆきます。大雑把に言って、透明なところがなくなって灰色のコンクリート状になった頃が目安です。１回目の塗りが多少乾いてから塗ってください。１㎡につき約600ｇ位必要です。その上に剥ぎ取りを先の鉛筆の線に合わせて貼りつけます。土嚢等の重しを均等に乗せて板との隙間をなくします。パネルの端は板を噛ませて、万力等で固定させます。

発掘作業が忙しくてもできるだけ短期間にパネル貼りしましょう。ＮＲ－51の剥取りはたたむと折り目がつき戻らなくなります。ＮＳ－10の場合、長期間放置すると著しく収縮します。

(パネル貼りの際の注意)

(1) 裏打ちに書いたレベルラインをパネルの線に平行に、つまり立てた時レベルが水平になるようにしてください。

(2) レベルラインはパネルの裏側に写しかえておいてください。

(3) ２回目の塗りは鉛筆の線より下４～５㎝は塗らずに空けておいてください。剥ぎ取りを置いてプレスするとはみ出してきます。

ｆ、整形

パネル貼りが固まったら整形作業を行います。パネルの左右、下部のはみ出した剥ぎ取りを大きめのカッターやグラインダーで切り取ります。

表面の濁れ色を出すためにサンコールＳＫ－50を使用します。

サンコールＳＫ－50：サンコールシンナー＝１：４の割合で混合。霧吹きで一度全体ムラなく吹きつけてから、上方からハケで押さえつけるように塗って仕上げてください。２～３回繰り返します。

パネルの上部の空いたところはペンキで青色等の着色をしましょう。

穴のあいたところは、セメダイン＋アセトンを塗って上から同質の土をかけて修復します。

(整形の際の注意)

(1) シンナーによる中毒を避けるため、作業はなるべく屋外の日除の風通しの良い場所で行ってください。やむをえず室内で行う場合も窓を空けておいて下さい。

(2) 石、土器等が断面に張りついている時は、それらにＳＫ－50をなるべく塗らないようにしてください。表面が光ってしまいます。

(3) 火気は絶対厳禁です。とくに煙草など吸わないようにしてください。

(4) シンナー缶は直射日光にあてないようにしてください。保管にも十分注意のこと。

３．材料の入手方法

下記の店が取り扱っています。

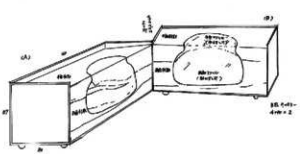
〒550-0013　大阪市西区新町1-10-2（大阪産業ビル3階）

三恒商事株式会社

☎06-6538-0571　FAX06-6535-1292

立体剥取り

第３次調査で検出された北区の貯蔵穴は南区のそれとは違い、全く断面等が傷つけられていないものがあった。なんとか切り取り作業で検出面、断面、完掘状況が復元できないものか考えたが、遺構切り取りでは切り取った時点の状況しか見られないた



第７図　貯蔵穴立体剥取収蔵計画図

め、発掘後の状況は復元できない。傷のない貯蔵穴を検出状況、断面断ち割り状況、完掘状況を段階的に見ることができる資料ができないものか神戸市教育委員会の千種浩氏に相談した。これに対する回答は剥取りを応用した立体剥取り法であった。

立体剥取りは古墳などで発掘される木棺を完掘した時点でやや軟質な剥取り剤（ＮＳ－10）で凸型を型取りした後、硬質な剥取り剤（ＮＲ－51）で凸型の表面に残った土を剥取り、凹型をとることにより、発掘した状況を再現できる方法を応用して、理論的には検出面、断面、完掘状況を復元できることが判明した。

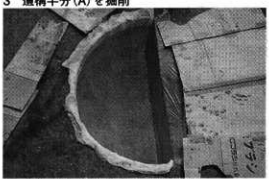
そこでこのような理想的な形を現実化するには平面は正円で、断面もシンメトリーであることが条件である。なぜなら、二分割される剥取りは断面は片方しかとることができないため、これらの条件を満たすもののみが対象となる。これは遺構検出時点で判断する必要があり、発掘時点の観察が必要とされた。幸い、SK308は検出時は正円形をしていたため、この貯蔵穴と考えられる遺構を立体剥取り対象として作業を実施した。

写真15　立体剥取り工程－1

1　検出面精査

2　検出面をNS-10で剥取り

3　遺構半分(A)を掘削


4　(A)内面を剥取剤(NS-10)で密着

5　(A)内部に発砲ウレタンを充填

6　(A)掘り出し

7　(A)剥取面の外側を精査

8　(A)外側をNR-51で密着させ、FRPで固定

9　(A)内部のウレタン除去

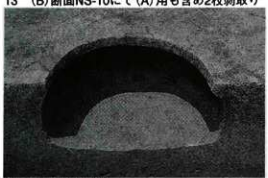
10　(A)凹型検出

写真16　立体剥取り工程－2

11　(A)内面剥取剤を剥がし、内外面間の土を検出

12　(B)断面精査

13　(B)断面NS-10にて(A)用も含め2枚剥取り



14　(B)内部を発掘

15　(B)に対して4～11作業を繰り返し、(A)(B)凹型完成

16　内外面を整形

17　断面の外寸切断

18　断面の遺構境界を切断

19　遺構上面剥取りも同様に切断し、接着

20　断面接着

写真17　立体剥取り工程－3

21　各部接合箇所の隙間に補填剤注入

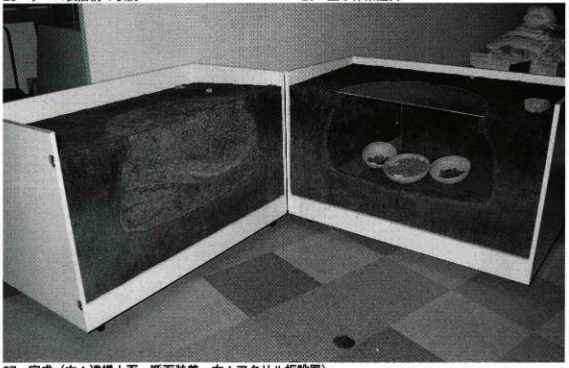
24　ケース装着（(株)タモン製作）

22　接合箇所の着色・剥取面をSK-50で仕上げ

25　(A)(B)の密着状態を確認

23　ケース装着前の状況

26　主な作業道具



27　完成（左：遺構上面・断面装着、右：アクリル板設置）

第２章　遺跡の環境

第１節　地理的環境

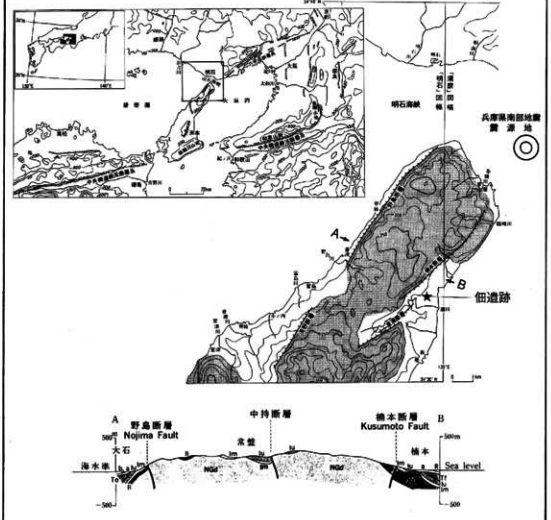
（深井）

（淡路島の位置）

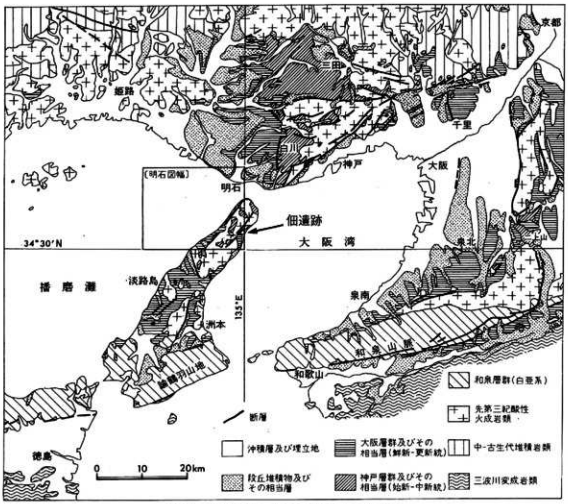
瀬戸内海最大の島である淡路島は、兵庫県の本州側と離れて、東は大阪湾、西は播磨灘、南は太平洋に面している。島の北は明石海峡、東は紀淡海峡、南西は鳴門海峡に隔てられており、鳴門海峡は本州四国連絡道路ですでに結ばれ、明石海峡は同工事で結ばれている。

（淡路島の規模）

１市７町に人口15万人が居住する淡路島は北端の淡路町松帆から南の南淡町沼島までは54km、東の洲本市由良から西端の西淡町鐙崎まで28kmをはかる南北に長い島である。面積は596平方キロあり、兵



第８図　淡路島周辺の地形と活断層及び埋谷面図
（明石地域の地質　通産省地質調査所1990に加筆）



第9図　淡路島及びその周辺地域の地質図
(明石地域の地質　通産省地質調査所1990から)

庫県土の7.1%を占める。地形地質的には南北に大きく分かれる。北部は常隆寺山（515m）・先山（448m）などの山々が北東から南西に延びる津名山地を形成し、平野は少ない。南部は柏原山（569m）・諭鶴羽山（608m）などが東から西南西にのびる諭鶴羽山地により形成され、これらの境に三原平野・洲本平野が広がり沖積地が発達している。

淡路島北部の地質構造は北部は六甲山地と同様の領家花崗岩類と低地を埋める神戸層群および大阪層群により形成されている。淡路島北部は海岸部まで山地が切り立ち、平野が狭く、海岸近くまで棚田が発達し山麓の谷や沢にはため池が灌漑用に利用されている。淡路町岩屋に位置する大和島は海蝕崖により各所が抉られた奇岩として有名である（写真18）。また北部には六甲山系を隆起させた断層が多く存在する。1995年1月17日に発生した兵庫県南部地震により隆起した野島断層は淡路島北部の西海岸沿いにある。一方東海岸沿いの佃遺跡付近においても楠本断層や東浦断層の大規模な断層があり、1596年の伏見地震の際に変位したことが確認されている。

南部は中央構造線の北側に位置する諭鶴羽山地を中心とし、中生代白亜紀の和泉層群の砂岩・頁岩およびそれらの互層からなる。淡路島の南岸沿いに中央構造線が東西にあり、淡路島の南４kmに位置する沼島は中央構造線の南に位置する。この関係で沼島は結晶片岩で形成されている。一方諭鶴羽山脈北側の三原平野および洲本平野に接する部分は段丘が発達しており、なだらかな地形を形成する。

平野部が発達している南部は温暖な気候を反映して二毛作や三毛作が続けられている。

写真18　淡路町岩屋の大和島に残る海食痕跡

（東浦町の概要）

個遺跡の所在する東浦町は人口約8,500人、淡路島北部の大阪湾に面する東海岸に位置し、北は明石海峡に面する淡路町、西は播磨灘に面する北淡町、南には津名町と接している。また、南から延びる津名山地が最北端の明石海峡まで迫っており、津名山地北部にあたる。淡路町の大阪湾よりの南は東浦町、播磨灘よりの南は北淡町があり、いずれも北淡路の津名山地の縁辺に小規模な平地が広がる立地条件下にある。町内は南北9.6km、東西3.1kmで、面積は24.71平方キロである。町内の平地は浦川及び今出川下流域に小規模に広がり、北部の大磯では海岸埋め立てにより造成地が広がる。その他は津名山地にあたり、海岸から山地にかけて多くの谷が入り込んでいる。

東浦町の山地における地質構造は前述のとおり六甲山系にあたるため、領家花崗岩類に属している。僅かに広がる平地には扇状地および海浜部からなり、海岸線には砂帯が存在し、扇状地側には後背湿地が広がる。前述のように島内北部には1995年の兵庫県南部地震で断層の隆起現象が見られた野島断層が津名山地西側の海岸に平行し、東海岸沿いには楠本断層や東浦断層などが存在する。

なお個遺跡は北側に位置する津名山地から派生する中位段丘に挟まれた山麓性の小規模扇状地上に位置し、南区の一部は浦川下流域の沖積地にあたる。(1)

東浦町の植生としては町の木にも指定されているウバメガシが有名で、東浦町河内の白山神社境内のものは兵庫県自然保全林に指定されており、多数の常緑照葉樹林がみられる。

東浦町の産業としては農業はもとより温暖な気候を生かしてカーネーションやキクなどを主とした花卉栽培が盛んである。一方、大阪湾近辺の漁業も盛んであり、海産物としてはノリやワカメの養殖が盛んである。本州四国連絡道路が開通後は京阪神とは短時間で結ばれ、島内の人・物の動きも変化するものと考えられる。

第２節　歴史的環境

（深井）

（淡路島を巡る遺跡）

旧石器時代から縄文時代初頭の島内の遺跡としては淡路町岩屋所在の岩屋遺跡があり、有舌尖頭器が採集されていた。淡路縦貫道淡路インターチェンジおよび岩屋バイパス敷地にまたがる、まるやま遺跡[2]では1991年・1994年に発掘調査され、サヌカイト製の有舌尖頭器や削器・掻器等の石器類が多数発見され、明石海峡の海水位が下がっていた約１万年前の狩猟採集民の存在が明らかになった。また明石海峡を隔てた対岸の明石市西八木では1931年明石人の化石が発見されている。[3] 1997年には藤江川添遺跡[4]でチャート製のハンドアックスが出土し、明石人との関係を考えるうえで興味ある資料となった。淡路島では旧石器時代のチャート製のナイフ形石器出土地として三原郡三原町の浦壁池遺跡がある。このほか1997年12月には西淡町筒井の曽根遺跡[5]にて、サヌカイト製の国府型ナイフ形石器が出土した。島内の有舌尖頭器の出土例としては津名郡北淡町舟木遺跡[6]や五色町中島遺跡[7]など13遺跡からの出土をみる。

縄文時代の遺跡としては、島内で約50箇所の遺跡が発見されているが、北淡路においては早・前期頃から晩期まで継続的に営まれる集落が判明しており、淡路町の明石海峡に面したナキリ遺跡[8]では、少量ではあるが前期から晩期の土器が採集されている。北淡町の堂の前遺跡[9]では早・前・後・晩期の土器が出土した。東浦町の佃遺跡では草創期の有舌尖頭器と早期末ごろから晩期までの土器や石器が出土している。一方、南淡路ではこのような継続した遺跡は現段階では確認されていない。

次に縄文時代全期間ではなく、比較的短期間ではあるが、発掘等で明確になってきた遺跡を紹介しよう。東浦町の楠本下林遺跡[10]では早期末の茅山下層式・上ノ山式・石山式・八ツ崎式土器などが出土しており、当時の交流域の広さを証明する資料が出土した。また同町釜口の船頭ケ内遺跡[11]で早期の楕円押型文土器が一括出土している。淡路町のまるやま遺跡[12]では縄文早期末頃と考えられる白色系の石材による玦状耳飾り転用ペンダントなどの石器が出土している。淡路町の明石海峡に面する海浜部に位置する給田遺跡[13]では晩期の長原式突帯文土器が出土している。一方、淡路町の山地から派生する尾根上の塩壺西遺跡[14]では後期宮滝式土器や晩期突帯文土器が少量ながら出土し、同様の立地にある岡山遺跡や砂連尾遺跡では後期中葉の遺物（一乗寺K式を主体に西平系土器）が出土している。[15] 東浦町今出川遺跡では縦方向の条線がみられる後期と考えられる土器が採集されている。津名町生穂の湯ノ谷池遺跡周辺では分布調査にて前期を中心とする遺跡が発見された。一宮町尾崎では縄文後期の老ノ内遺跡[16]やほ場整備に際して確認された外ヶ鼻遺跡[17]がある。南淡路では洲本市の武山遺跡[18]があり、前・中期の遺物が多数出土した。また同市の安乎間所遺跡[19]では晩期突帯文土器が出土している。西淡町では本州四国連絡道路建設に伴い谷町筋遺跡[20]が発掘され後期前葉の縁帯文土器が出土している。また叶堂城跡[21]では中期前葉から後期後葉の土器（船元Ⅰ式・北白川C式・中津式・元住吉山Ⅰ式）が出土している。、明石海峡をへだてた神戸市垂水区の垂水・日向遺跡[22]では縄文前期の波打ち際や低湿地が判明し、海辺へもかう人の足跡も発掘された。また垂水区の大歳山遺跡[23]では前期および晩期の土器が出土し、前期末の特殊突帯文土器は前期末の特徴とされている。西区押部谷町の元住吉山遺跡[24]は後期中葉から後葉の元住吉山式の標式遺跡である。淡路島における縄文時代の遺跡は本州四国連絡道路に伴う発掘調査のみならず各事業で確認されており、今後は大規模な拠点集落が発掘される可能性が高い。

弥生時代の遺跡としては北淡路は広大な平地がなく、長期におよぶ拠点集落が判明していない。しかし、山間部を利用した高地性集落は多数存在する。東浦町内の遺跡として海浜部に近い佃遺跡では前期

から後期までの資料が少量ながらも存在する。その他、今出川遺跡では前期の土器が採集され、河川に近い立地から周辺部に水田の存在を想起させる。一方高地性集落としては本州四国連絡道路関係で発掘調査された、禿山遺跡[25]・尼ヶ岡遺跡[26]では後期後半の住居跡などが発掘された。また大坂遺跡、行免形遺跡、千本遺跡においても後期の高地性集落が確認された[27]。その他、山地性の遺跡としては白山真土遺跡[28]が確認され、中期末から後期の遺跡であることが判明している。また楠本下林遺跡では後期の住居跡が発掘された。淡路町では明石海峡を望む高地性集落が本州四国連絡道路関係により発掘された。その中でも大規模なものとして塩壺西遺跡[29]があり、後期後半から末頃の高地性集落で、住居跡と共に〝のろし〟を焚いた可能性のある土坑や、全長13.6cmの鉄鏃が出土しており、明石海峡の交通を確保する畿内勢力下にあった集団の遺跡と考えられている。明石海峡周辺の高地性集落は、対岸の明石や神戸の遺跡と淡路島側の遺跡とで交通確保や通信に有機的な関係にあったものと考えられる。北淡町では津名山地に位置する舟木遺跡やおぎわら遺跡、久野々遺跡[30]など高地性集落が多数存在する。中でも舟木遺跡はほ場整備事業で大規模に発掘調査され、後期後半から庄内式期の住居跡とともに環濠とも考えられる大規模な溝状遺構が検出されている。津名町や一宮町においても津名山地一帯の標高100m付近には多数の高地性集落が発見されている。一方、南淡路では本州四国連絡道路建設に伴って洲本市の森遺跡[31]、大森谷遺跡[32]が、西淡町では谷町筋遺跡[33]、鈩田遺跡[34]、志知川沖田南遺跡[35]などが発掘され、中期から後期の集落、方形周溝墓や水田が検出された。

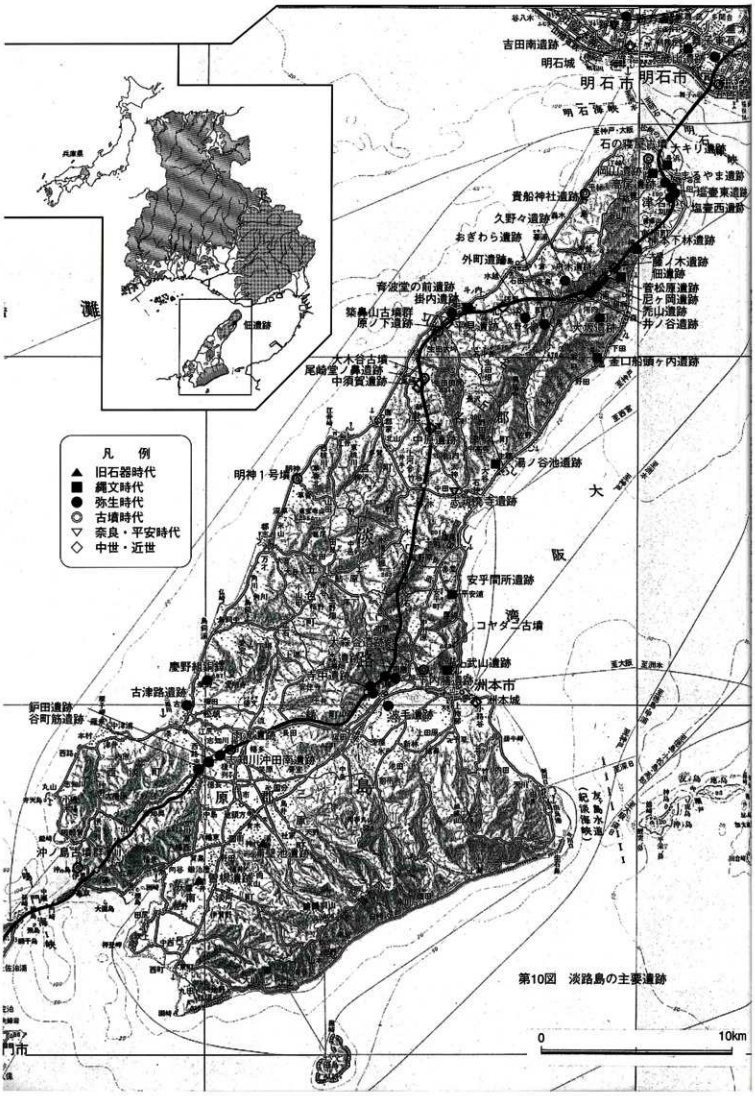
古墳時代の遺跡としては集落や水田が発掘されているが古墳の数は極端に少なく、100基を越える程度である。東浦町内の遺跡としては、佃遺跡で古墳時代の遺物は出土しているものの遺構の実態は不明である。なお周辺部での古墳の存在は知られていない。一方、海浜部という立地から製塩遺跡が確認されている。今出川遺跡では弥生後期の製塩土器が出土し、引野遺跡[36]では、脚台３式・４式・丸底式の変遷過程が判る各型式の土器が各型式に伴う製塩炉と共に検出された。その他、井上遺跡、楠本塩入遺跡、平松遺跡、萱野遺跡などがある。北淡町野島の貴船神社遺跡[37]では集石の製塩炉が22基発掘された。南淡路の古墳時代の遺跡は洲本市周辺で僅かに発掘調査されている程度である。

古代から中世の遺跡の調査は増加しつつある。律令期の淡路国の国庁や国分寺[38]は三原平野に位置している。なお、北淡路は津名郡に属し、津名郡の郷は志筑・来馬・育波・郡家・都志があり、佃遺跡の存在する東浦町域は来馬郷にあたる。東浦町では佃遺跡、井ノ谷遺跡[39]、藤ノ木遺跡[40]において平安時代末の集落が発掘されている。中世の遺跡としては佃遺跡のほか、周辺には正井館や土井館などがある。その他南淡路では叶堂城跡、葵宜館などが調査されているがその例は多くない。

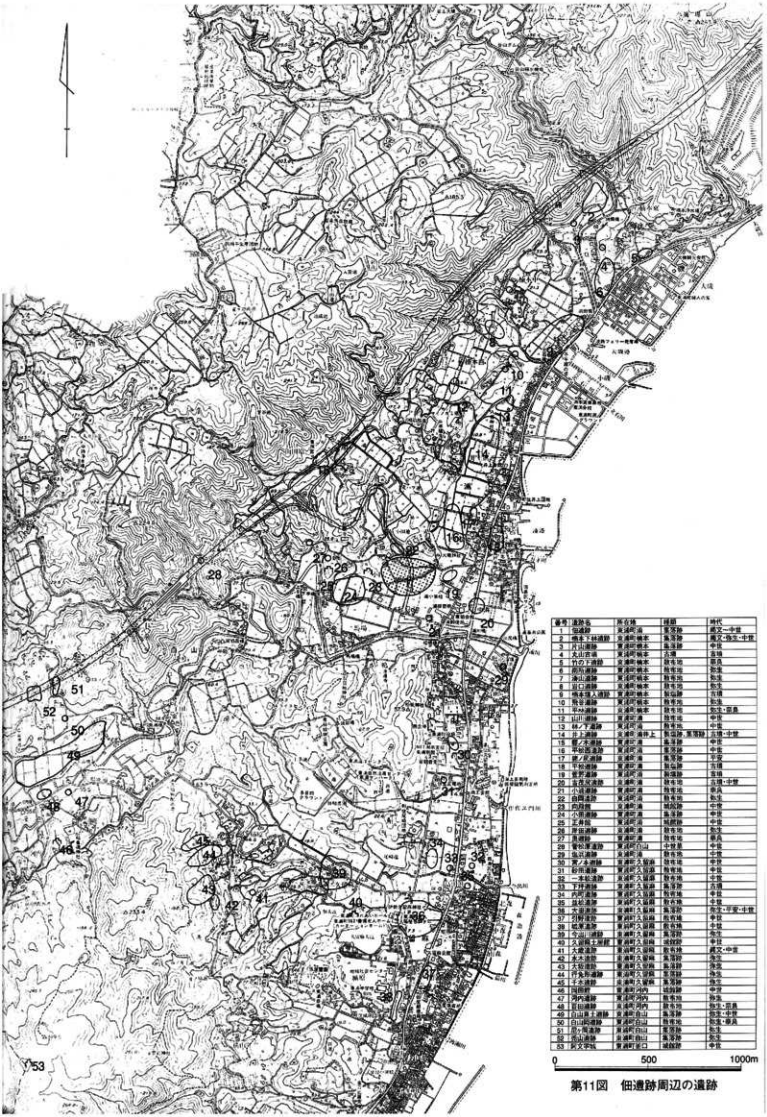
（参考文献）

・神戸新聞出版センター 1983『兵庫県大百科事典』

・角川日本地名辞典編纂委員会編 1988『角川日本地名大辞典　兵庫県』



第10図　淡路島の主要遺跡



番号	遺跡名	所在地	種類	時代
1	信濃町	長崎県諫早市	集落址	縄文～中世
2	曲崎下・林遺跡	長崎県諫早市	集落址	縄文・弥生・古墳
3	片山遺跡	長崎県諫早市	集落址	中世
4	久山遺跡	長崎県諫早市	古墳	古墳
5	竹の下遺跡	長崎県諫早市	散布地	弥生
6	高山遺跡	長崎県諫早市	散布地	弥生
7	高山遺跡	長崎県諫早市	散布地	弥生
8	田口遺跡	長崎県諫早市	散布地	弥生
9	梅本下遺跡	長崎県諫早市	散布地	古墳
10	梅谷遺跡	長崎県諫早市	散布地	弥生
11	大内遺跡	長崎県諫早市	散布地	弥生・古墳
12	山口遺跡	長崎県諫早市	散布地	弥生
13	宮ノ下遺跡	長崎県諫早市	散布地	中世
14	北上遺跡	長崎県諫早市上	集落跡、墓地跡	古墳・中世
15	鷹ノ木遺跡	長崎県諫早市	集落跡	中世
16	中尾遺跡	長崎県諫早市	集落跡	中世
17	鷹ノ原遺跡	長崎県諫早市	集落跡	中世
18	平野遺跡	長崎県諫早市	散布地	古墳
19	新町遺跡	長崎県諫早市	散布地	古墳
20	金丸又遺跡	長崎県諫早市	散布地	古墳・中世
21	小山遺跡	長崎県諫早市	散布地	縄文
22	仙岡遺跡	長崎県諫早市	散布地	弥生
23	西遺跡	長崎県諫早市	城跡	中世
24	小野遺跡	長崎県諫早市	集落跡	中世
25	金剛寺	長崎県諫早市	墓地跡	中世
26	中山遺跡	長崎県諫早市	散布地	弥生
27	長崎駅	長崎県諫早市	散布地	縄文
28	青の洞遺跡	長崎県諫早市山田	散布地	中世
29	塩沢遺跡	長崎県諫早市	散布地	古墳
30	東ノ木遺跡	長崎県諫早市入野	散布地	中世
31	野中遺跡	長崎県諫早市入野	散布地	中世
32	東松遺跡	長崎県諫早市入野	散布地	古墳
33	下野遺跡	長崎県諫早市入野	散布地	古墳
34	内野遺跡	長崎県諫早市入野	散布地	中世
35	内野遺跡	長崎県諫早市入野	散布地	中世
36	大野遺跡	長崎県諫早市入野	集落跡	弥生・平安・中世
37	宮ノ下遺跡	長崎県諫早市入野	散布地	中世
38	城原遺跡	長崎県諫早市入野	散布地	中世
39	矢山ノ遺跡	長崎県諫早市入野	集落跡	弥生
40	大野ノ上遺跡	長崎県諫早市入野	散布地	中世
41	大畑遺跡	長崎県諫早市入野	散布地	縄文・中世
42	大畑遺跡	長崎県諫早市入野	集落跡	弥生
43	大畑遺跡	長崎県諫早市入野	集落跡	弥生
44	内野第一遺跡	長崎県諫早市入野	集落跡	弥生
45	千本遺跡	長崎県諫早市入野	集落跡	弥生
46	開作	長崎県諫早市	城跡跡	中世
47	海内遺跡	長崎県諫早市	散布地	弥生
48	原山遺跡	長崎県諫早市	散布地	弥生・古墳
49	白山台A遺跡	長崎県諫早市山	集落跡	弥生・中世
50	白山台B遺跡	長崎県諫早市山	散布地	弥生・古墳
51	五ノ尾遺跡	長崎県諫早市山	集落跡	弥生
52	西山遺跡	長崎県諫早市山	集落跡	弥生
53	新文学館	長崎県諫早市	城跡跡	中世

0　500　1000m

第11図　佃遺跡周辺の遺跡

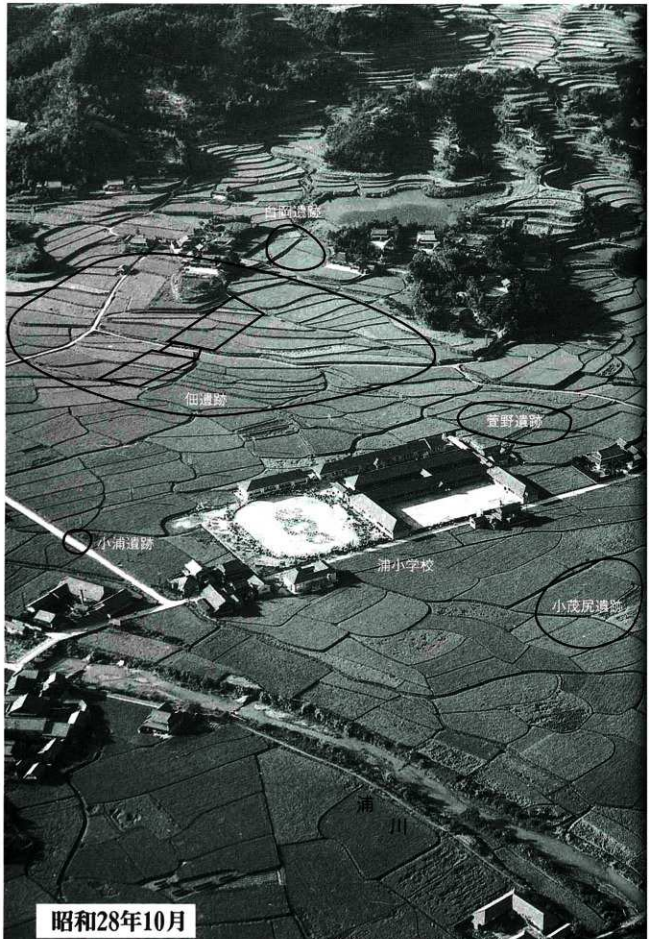
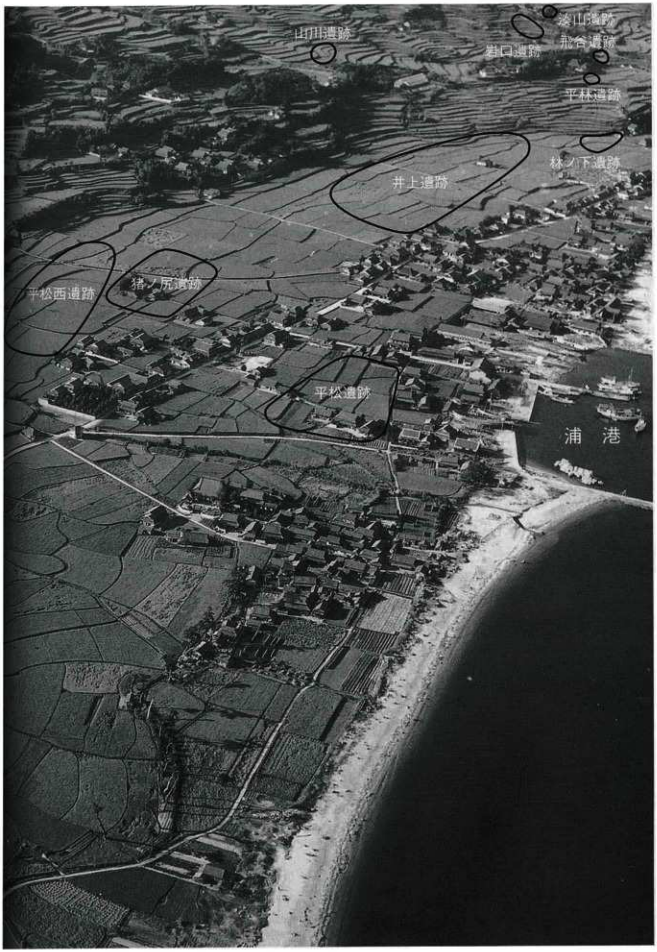


写真19　周辺の遺跡（浦小学校創立百周年記念誌から）新阜洲賀男氏1953.10.3撮影


山田遺跡
凌山遺跡
荒谷遺跡
岩口遺跡
平林遺跡
林ノ下遺跡
井上遺跡
平松西遺跡
猪ノ所遺跡
平松遺跡
浦　港

（註）

(1) 前田保夫先生の御教示をえた。

(2) 三原慎吾 1998『まるやま遺跡』本州四国連絡道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告（兵庫県文化財調査報告第178冊）兵庫県教育委員会

(3) 直良信夫 1931『播磨国西八木海岸洪積層中発見の人類遺品』『人類学雑誌』46-5、46-6

(4) 稲原昭嘉 1999「藤江川添遺跡」『明石市文化財年報　平成９年度』明石市教育委員会

(5) 1997年兵庫県教育委員会により発掘調査された。篠宮　正氏の御教示を得た。

(6) 伊藤宏幸・明元知子 1994『舟木遺跡』北淡町教育委員会

(7) 1991年有舌尖頭器などが表面採集された。伊藤宏幸氏の御教示を得た。

(8) 石野博信編著 1979『縄文時代の兵庫』兵庫考古研究会

(9) 註8に同じ

(10)伊藤宏幸ほか 1997『鮎木下林遺跡』東浦町教育委員会

(11)1989年ほ場整備事業における遺跡確認調査にて発見された。波毛康宏氏の御教示を得た。

(12)1994年に岩屋バイパス建設事業において兵庫県教育委員会により発掘された。

(13)註8に同じ

(14)深井明比古ほか 1998『塩壺西遺跡』（兵庫県文化財調査報告第160冊）兵庫県教育委員会

(15)淡路町教育委員会が調査主体となり津名郡町村会が確認調査を実施し、土坑や遺物包含層が発掘された。

(16)1996年阪神・淡路大震災復旧・復興事業で確認調査された。伊藤宏幸氏の御教示を得た。

(17)1995年ほ場整備事業による調査で縄文時代後期の竪穴住居跡が発掘された。伊藤宏幸氏のご教示を得た。

(18)田辺昭三ほか 1975『武山遺跡発掘調査概報』洲本市教育委員会

(19)浦上雅史 1985『安乎岡所遺跡発掘調査概報』洲本市教育委員会

(20)吉識雅仁ほか 1992『谷町筋遺跡』（兵庫県文化財調査報告第73冊）兵庫県教育委員会

(21)岡崎正雄ほか 1991『叶倉城跡』（兵庫県文化財調査報告第113冊）兵庫県教育委員会

(22)丸山　潔ほか 1996『垂水・日向遺跡第９次・10次調査』（平成５年度神戸市埋蔵文化財年報）神戸市教育委員会

(23)直良信夫 1943「大歳山遺跡」『近畿古代文化論叢考』

(24)直良信夫 1928「播磨国明石郡押部谷村元住吉山の遺跡について」『人類学雑誌』43-5

(25)岸本一宏ほか「禿山遺跡」「禿山遺跡他発掘調査報告書」本州四国連絡道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告、（兵庫県文化財調査報告第177冊）兵庫県教育委員会

(26)岸本一宏ほか「尼ヶ岡遺跡」「禿山遺跡他発掘調査報告書」本州四国連絡道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告、（兵庫県文化財調査報告第177冊）兵庫県教育委員会

(27)1993年町道建設に伴い、東浦町教育委員会が調査主体となり津名郡町村会職員により調査が実施された。伊藤宏幸氏の御教示による。

(28)1980年ほ場整備事業に伴い、東浦町教育委員会が調査主体となり波毛康宏氏が調査を実施した。

(29)註14に同じ

(30)別府洋二ほか 1996「久野々遺跡」一般農道整備事業（仁井Ⅱ期地区）に伴う発掘調査報告書（兵庫県文化財調査報告第167冊）兵庫県教育委員会

(31)吉識雅仁ほか 1988『森遺跡』（兵庫県文化財調査報告第55冊）兵庫県教育委員会

(32)別府洋二ほか 1985『大森谷遺跡』（兵庫県文化財調査報告第27冊）兵庫県教育委員会

(33)吉識雅仁ほか 1990『谷町筋遺跡』（兵庫県文化財調査報告第73冊）兵庫県教育委員会

(34)小川良太ほか 1986『鈴田遺跡』（兵庫県文化財調査年報昭和58年度）兵庫県教育委員会

(35)松下　勝ほか 1987『淡路・志知川沖田南遺跡』（兵庫県文化財調査報告第40冊）兵庫県教育委員会

(36)1997年町道整備事業に伴い、東浦町教育委員会が調査主体となり津名郡町村会職員により調査が実施された。伊藤宏幸氏の御教示を得た。

(37)池田征弘ほか 1996「貴船神社遺跡」『平成７年度年報』兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所

(38)濱口憲二ほか 1993『淡路国分寺』（三原町埋蔵文化財調査報告第２集）三原町教育委員会

(39)吉田　昇ほか 1997「井ノ谷遺跡」『中原遺跡他発掘調査報告書』本州四国連絡道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告Ⅰ（兵庫県文化財調査報告第159冊）兵庫県教育委員会

(40)吉田　昇ほか 1997「藤ノ木遺跡」『中原遺跡他発掘調査報告書』本州四国連絡道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告Ⅰ（兵庫県文化財調査報告第159冊）兵庫県教育委員会

第３章　地形の成因と基本層序

第１節　地形の成因

（山本）

佃遺跡は現在の海岸線から約600m距離がある。遺跡北西から南東方向にむかう扇状地地形に立地し、発掘調査前の地目は水田であり、標高14mから７mで比較的緩やかな段を形成している。遺跡の北西約800m付近には、北東から南西に向かう断層崖が存在する。標高90～100m付近が傾斜変換点となり、そこから西へ向かう海側に向かって、いくつかの扇状地地形が形成され、その扇状地の末端部付近にこの遺跡は立地している。

遺跡の調査区南側（南区）で土層確認のための掘削を行った結果、アカホヤ火山灰層を確認した。その上位にはアカホヤ火山灰の２次堆積層とシルト層の互層が確認され、約7300年前頃は、この場所は、湿地状の環境であったことが想像される。その後、シルト層・粗砂層・砂礫層が堆積し、その上面（縄文中期）から人間の活動の痕跡が残されている。

第２節　基本層序・文化層の認識

（山本）

佃遺跡では、出土した土器型式の分類によって、佃１期から佃６期の時期を設定した。佃１期は縄文時代中期前半の船元式・里木式である。佃２期は、縄文時代後期前葉の四ッ池式・芥川式、佃３期は縄文時代後期中葉の北白川上層式３期から一乗寺Ｋ式にかけて、佃４期は縄文時代後期後半の元住吉山Ⅰ式、佃５期は元住吉山Ⅰ式から宮滝式、佃６期は縄文時代晩期前半の滋賀里Ⅲａ式・篠原式となる。

この６期区分を元に北区・中央区では、下の方から順に、最下層、下層、中層、上層の４つの遺物包含層に対応して、最下層文化層（佃１期）、下層文化層（佃３・４期）、中層文化層（佃５期）、上層文化層（佃６期）を設定した。

南区でも６期区分を元に最下層文化層（２期）、下層文化層（３・４・５期）、上層文化層（６期）を設定した。下層文化層に相当する土層の厚さは、最大２ｍもあり、土層の分層及び検出した土器型式から３つの時期に細分することができた。なお、南区では中層文化層は検出できなかった。

以上のように、発掘調査当時の所見をもとに、時期区分及び各文化層の設定を行ったが、佃遺跡の遺物に関する整理作業（室内作業）を実施していく上で、様々な事柄が判明した。遺跡の発掘調査中に認識できた最も古い時期は上記の佃３期（縄文時代後期前半）の遺構であったが、それ以前の時期に相当する土器も出土していることがわかった。出土した縄文土器のなかには、縄文時代早期末から前期初めにさかのぼる可能性も認めることができ、佃遺跡の所在地の周辺（上方）には、この時期の遺構が存在している可能性が高くなった。佃遺跡の北方約2.2ｋｍの山裾には楠本下林遺跡（標高約20m）が存在するが、この遺跡では早期後半の土器（芦山下層式・八ッ崎Ⅰ式・上ノ山式・石山式）の出土が、土坑４基とともに報告されている。

この佃遺跡では、縄文下層の頃には、調査区南側は浦川の旧流路の一部となっていたようで、比高差約2.5mの崖面（20ライン付近）を形成していたようである（佃３期）。ただ、縄文最下層に所属する遺

構がこの崖面上に存在するものの、同時期の遺構及び遺物包含層が崖下の地域には全く認められない。これは、この時期に崖斜面及び崖下の利用がなかったとも考えられるが、その後の時期の崖面の利用例を考えた場合、最下層の時期にも崖面の利用があったと考えても良さそうである。遺構や、遺物包含層が残されていない理由には、何度となく繰り返される旧流路の流れの変化に伴い、痕跡が流され、なくなってしまった可能性を考えている。

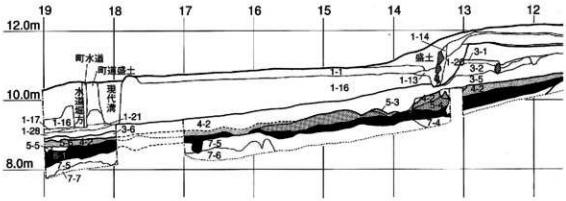
その後、縄文時代後期には2度、大きな洪水があったようで、そのときの洪水砂によって、この崖面は段階的に埋没している。なお、この2度の洪水砂間に元住吉山式期（佃4～5期）の遺物包含層が堆積し、当該期のごみ捨て場としての機能を有していたようである。

縄文時代晩期に再び浦川の流路が遺跡付近まで達し、23ライン付近において比高差2mの崖面を再び形成している（佃6期）。下層（佃4～5期）に比べ、崖面のラインが15m前進（南下）している。弥生時代になって再び洪水が起こり、砂層によってこの崖面は消滅し、現在に至る。

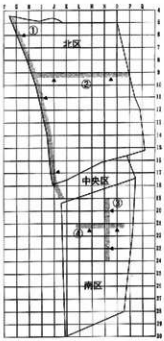
第2表　文化層関係表

	北区・中央区	南区
最下層文化層	（遺構面・遺物包含層） 佃1期：船元・里木式	佃2期：四ッ池・芥川式
下層文化層	（遺構面・遺物包含層） 佃3期：北白川上層式3期 ～一乗寺K式 佃4期：一乗寺K式～ 元住吉山Ⅰ式	（貯蔵穴） 佃3期：北白川上層式3期 ～一乗寺K式 （廃棄場？） 佃4期：一乗寺K式・元住吉山Ⅰ式 （暗褐色土層・縄文粘質土層下部） （廃棄場） 佃5期：元住吉山Ⅰ・Ⅱ式 （黒色粘質土層）
中層文化層	（貯蔵穴） 佃5期：元住吉山Ⅰ～宮滝式	
上層文化層	（遺構面・遺物包含層） 佃6期：滋賀里Ⅲa・篠原式	佃6期？

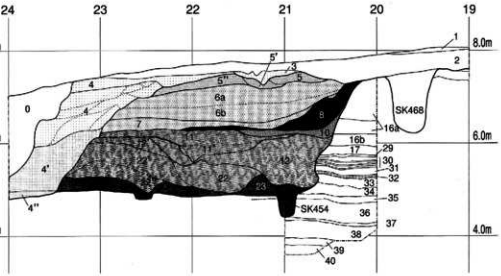
第12図　佃遺跡周辺等高線図



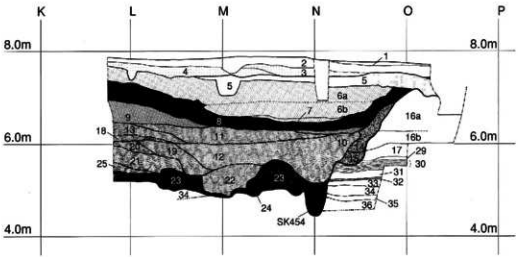
北・中央区西壁土層断面図



土層断面位置模式図



南区Nライン土層断面図



南区21ライン土層断面図

第13図　土層断面図－１